

ICOM

取扱説明書

VHF TRANSCEIVER
IC-S25
UHF TRANSCEIVER
IC-S35

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。この取扱説明書は、別売品のこととも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。



IC-S25



IC-S35

Icom Inc.

はじめに

このたびは、IC-S25/IC-S35をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-S25は144MHz帯、IC-S35は430MHz帯のFMハンドヘルドトランシーバーです。

JIS4級相当の防水性能を搭載し、IC-S25は7W、IC-S35は5Wのハイパワー出力を実現しました。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom, Inc.、icom、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。

D-STARは社団法人日本アマチュア無線連盟の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

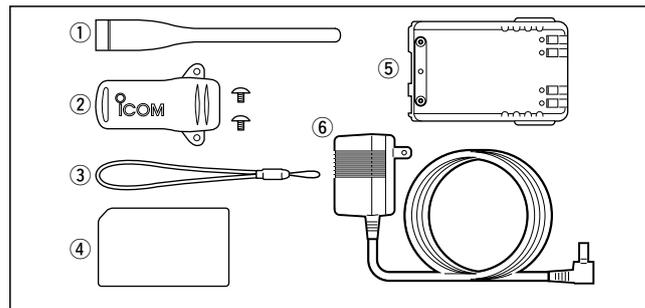
アイコム株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複製およびいかなる方法による複製を禁止します。

ユーザー登録について

同梱の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要なとなります。

付属品



- | | |
|--------------------|-------------------------|
| ①アンテナ | ⑥充電器* |
| ②ベルトクリップ | ● 取扱説明書 |
| ③ハンドストラップ | ● 保証書 |
| ④ユニットカバー | ● 愛用者カード |
| ⑤バッテリーパックまたは乾電池ケース | *仕様によって、付属していない場合があります。 |

[ご参考] 梱包箱などはアフターサービスを依頼するときなどのため、保管されることをおすすめします。

個人情報の利用について

弊社が個人情報を利用する場合は、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内にて利用し、範囲を超えての利用はいたしません。

弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ (<http://www.icom.co.jp>) をご覧ください。

はじめに	i
もくじ	ii
安全上のご注意(必ずお読みください)	v
■無線機本体について	v
■バッテリーパックについて	vii
■充電器について	ix
1. 各部の名称と機能	1
■上面/側面/前面パネル	1
■表示部	3
2. ご使用前に	5
■付属品の取り付けかた	5
◇アンテナを取り付ける	5
◇ベルトクリップを取り付ける	5
◇ハンドストラップを取り付ける	5
3. 電池/外部電源について	6
■電池の入れかた	6
◇フタをはずす	6
◇電池を挿入する	6
◇フタを閉める	6
■バッテリーパック/バッテリーケースの脱着	7
■簡易充電のしかた	7
■急速充電のしかた	8
◇パイロットランプ表示について	8
◇運用時間の目安	9
■充電時のご注意	10
■外部電源の接続	10
4. 基本操作のしかた	11
■電源の入れかた、音量/スケルチ/周波数/送信出力の 設定のしかた	11
◇電源を入れる	11
◇音量を調整する	11
◇スケルチを調整する	12
◇周波数を設定する	12
◇送信出力を設定して交信する	13

■運用モード[VFO/メモリー(M-CH)/コールチャンネル (CALL-CH)]の切り替えかた	14
◇VFOモードにするには	14
◇M-CHモード/CALL-CHモードにするには	14
■チューニングステップを変えるには	15
■受信モニター機能について	15
■スケルチディレイの設定	16
5. レピータ/デュプレックスの操作	17
■オートレピータ機能での交信(IC-S35のみ)	17
◇レピータ周波数を設定する	17
◇レピータにアクセスする	18
◇オートレピータ機能の解除のしかた	18
◇送信周波数のチェック	19
◇送信時のオフバンド表示について	19
■デュプレックスの運用	20
◇オフセット周波数を設定する	20
◇デュプレックスモードを設定する	20
◇交信する	21
6. メモリーチャンネルの操作	22
■メモリーモードについて	22
◇M-CHの初期設定値について	22
■M-CHの呼び出しかた	23
◇すべてのM-CHを呼び出す	23
■メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への 書き込みかた	24
◇M-CHの書き込みかた	24
◇書き込み後のオートインクリメントについて	26
◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには	26
◇M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには	26
■M-CHをバンクで編集する	27
◇M-CHとバンクの使用例	27
◇バンクのM-CH表記について	27
◇編集のしかた	27
◇メモリーバンクに編集した内容を確認するには	28

もくじ

■ メモリーネームの使いかた	29	◇ レピータ用トーン周波数の設定	41
◇ メモリーネームを入力する	29	◇ トーンスケルチ用トーン周波数の設定	41
◇ メモリーネームを表示するには	30	◇ DTCSコードの設定	41
■ メモリークリア(消去)のしかた	30	◇ DTCS位相反転機能の設定	42
◇ メモリーの内容を消去する	30	◇ チューニングステップの設定	42
■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた	31	◇ デュプレックスの設定	42
7. スキャンの操作	32	◇ オフセット周波数の設定	42
■ スキャンについて	32	◇ デュプレックス反転の設定	43
◇ スケルチの調整	32	◇ スキャンストップタイマーの設定	43
◇ スキャン中の[▼]/[▲]について	32	◇ ファンクションキータイマーの設定	43
◇ スキャン中のステップについて	32	◇ LCDバックライトの設定	43
◇ スキップ機能について	32	◇ 送信禁止の設定	44
◇ 信号を受信すると	33	◇ スキップチャンネルの設定	44
◇ 再スタートの条件設定	33	◇ メモリーバンクの設定	44
◇ スキップチャンネルの指定と解除のしかた	33	◇ メモリーバンクのリンク設定	45
■ VFOスキャンのしかた	34	■ イニシャルセットモードの設定のしかた	46
◇ フルスキャン/プログラムスキャンの操作	34	◇ イニシャルセットモードの操作	46
■ メモリスキャンのしかた	35	◇ イニシャルセットモードの設定項目一覧	47
◇ メモリスキャンの操作	35	■ イニシャルセットモードの設定項目について	48
■ メモリーバンクスキャンのしかた	35	◇ ビープ音(操作音)の設定	48
◇ メモリーバンクスキャンの操作	35	◇ タイムアウトタイマー機能の設定	48
8. プライオリティスキャンの操作	36	◇ オートレピータ機能の設定(IC-S35のみ設定)	48
■ プライオリティスキャンについて	36	◇ オートパワーオフ機能の設定	49
◇ VFO周波数を受信中にM-CHを受信する	36	◇ ロックアウト機能の設定	49
◇ VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する	37	◇ スケルチディレイの設定	49
◇ VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する	37	◇ DTMFコード送出スピードの設定	49
◇ VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CHを受信する	38	◇ [VOL]の機能入れ替え設定	50
◇ プライオリティスキャン解除時のご注意	38	◇ メモリーモード中の表示設定	50
9. セットモード	39	◇ LCDコントラストの設定	50
■ セットモードの設定方法	39	◇ パワーセーブの設定	50
◇ セットモードの操作	39	◇ [MONI]のホールド機能設定	51
◇ セットモードの設定項目一覧	40	◇ ダイアルスピードの設定	51
■ セットモードの設定項目について	41	◇ リモコン機能付きスピーカーマイクロホンの設定	51
		◇ バッテリー保護の設定	51

◇ オプションセットモードの設定	52	■ オートパワーオフ機能の使いかた	65
■ オプションセットモードの設定のしかた	52	■ キーロック機能の使いかた	65
◇ オプションセットモードの操作	52	■ タイムアウトタイマー機能の使いかた	65
■ オプションセットモードの設定項目について	52	■ クローニングについて	66
◇ DTMFセットモードの設定	52	11. 別売品について	67
10. 各種機能の使いかた	53	■ HM-75A(スピーカーマイクロホン)の使いかた	67
■ DTMFメモリー機能の使いかた	53	■ シンプル機能について	67
◇ DTMFメモリーの書き込みかた	53	■ UT-108(DTMF/コードスケルチユニット)の 取り付けかた	68
◇ DTMFコードの訂正と消去のしかた	54	■ CP-19(DC/DCシガレットライターケーブル)の ヒューズ交換について	68
◇ DTMFコードの送出操作	55	12. ご参考	69
◇ DTMFコード送出スピードの設定	56	■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には	69
■ トーン機能/DTCS機能/ポケットビープ機能の 使いかた	57	◇ オールリセットのしかた	69
◇ トーン機能とは	57	◇ パーシャルリセットのしかた	69
◇ トーンスケルチ機能とは	57	■ 故障かな?と思ったら	70
◇ ポケットビープ機能とは	57	■ 故障のときは	71
◇ CTCSS トーン周波数を設定する	57	13. 定格	72
◇ DTCSコードを設定する	58	■ 一般仕様	72
◇ 運用モードを設定して、交信する	58	■ 送信部	72
◇ ポケットビープで待ち受け受信しているとき	59	■ 受信部	72
◇ DTCS位相反転機能について	59	14. 免許申請について	73
■ CTCSS トーン/DTCSコードスキャンのしかた	60	■ 無線局事項書の書きかた	73
◇ スタート操作	60	■ 工事設計書の書きかた	73
◇ ストップ操作	60	■ 送信機系統図(IC-S25)	74
■ ページャー/コードスケルチについて	61	■ 送信機系統図(IC-S35)	75
◇ ページャー機能とは	61	■ バンドの使用区別について	76
◇ コードスケルチ機能とは	61	15. 別売品一覧	77
◇ ページャーコードとグループコードについて	61	16. 操作ガイド	80
■ ページャー機能の使いかた	62		
◇ 特定局の呼び出しかた	62		
◇ 待ち受け受信のしかた	63		
■ コードスケルチ機能の使いかた	63		
◇ コードスケルチでの通話のしかた	64		
■ ビープ音(操作音)について	65		

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- お読みになったあとは、大切に保管してください。

■無線機本体について



危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。火災、爆発の原因になります。
- 電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 運転中は、本機の操作をしないでください。交通事故の原因になります。
- 外部アンテナを使用しているときに、雷が鳴り出したら本機の電源を切り、外部アンテナを本機から外してください。火災や感電、故障の原因になります。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺では絶対に使用しないでください。運航の安全や無線局の運用、放送の受信に支障をきたす原因になりますので、電源を切ってください。
- 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- 指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続しないでください。感電、故障の原因になります。
- アンテナの端やストラップを持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなど使用しないでください。大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。火災、感電、故障の原因になります。
- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。火災、感電、故障の原因になります。

■ 無線機本体について(つづき)

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- マイクロホンを接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

- 製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
変色、塗料がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

△ モービル運用上のご注意

- 安全運転のため、走行中に本機を操作しないでください。
操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてください。
- 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。
一部の都道府県では、走行中にイヤホンやヘッドホン等を使用することが条例で規制されています。
- 本機を車に取り付ける場合、安全運転に支障がないように取り付けてください。
また、エアバック装備車に本機を取り付ける場合、このシステムの動作に影響を及ぼす取り付けかたはしないでください。
- 本製品をハイブリッドカー(ガソリンエンジンと電気モーターを交互に使用することで、エネルギー消費を大幅に減らした自動車)でご使用になる場合は、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

安全上のご注意

■バッテリーパックについて

危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- ◎バッテリーパックは、火の中に投入したり、加熱しないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所で充電しないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損して、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。
- ◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、+60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。
- ◎コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
 - バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
 - バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。

- ネックレスなどの金属類とバッテリーパックを一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
- バッテリーパックは、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器で使用したり、それ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎バッテリーパックの使用や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当にご連絡ください。
そのまま使用すると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

■ バッテリーパックについて(つづき)

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎バッテリーパックを電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置かないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎指定の充電時間を超過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎バッテリーパックから漏れだした液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。
- ◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれの原因になります。

注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- テープを巻きつけたり、加工しないでください。
バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。
 - バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置いたり、落下させないでください。
 - 水や海水につけたり、ぬらさないでください。
 - 分解や改造をしないでください。
- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
 - バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックの残量が約半分になってから、無線機から取りはずして保管してください。
 - -10°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用しないでください。
 - 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
 - ◎清掃には、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて(つづき)

注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- ◎ $+5^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では充電しないでください。
周囲温度が $+5^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ 以外の環境になる場所では、充電されることがあります。
- ◎ 無線機を長期間(約1年)使用しない場合はバッテリーパックを取りはずし、 $-20^{\circ}\text{C} \sim +20^{\circ}\text{C}$ で湿気の少ない場所に保管してください。
3ヶ月間ほど使用しない場合は、 $-20^{\circ}\text{C} \sim +35^{\circ}\text{C}$ で湿気の少ない場所に保管してください。
1ヶ月間ほど使用しない場合は、 $-20^{\circ}\text{C} \sim +50^{\circ}\text{C}$ で湿気の少ない場所に保管してください。
電池の発熱、サビの原因になることがあります。

使用後はリサイクルへ



Li-ion

この機器は充電式電池使用機器です。希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は破棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

■ 充電器について

危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 付属の充電器はリチウムイオンバッテリーパック専用の充電器です。
指定以外の充電には使用しないでください。
電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- この製品を分解、改造しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

■充電器について(つづき)

- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。
- むれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になります。
- 接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐにACコンセントから充電器を抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所カスタマーサービス担当にご連絡ください。


注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- 充電またはバッテリーを無線機本体に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。
- 5℃以下または35℃以上では充電しないでください。
周囲温度が+5℃～+35℃以外の環境になる場所では、充電されないことがあります。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、誤動作、変形、変色、または電池の破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。
- 充電器を抜き差しするときは、コードを引っ張らないでください。
火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから充電器を抜いてください。
火災、発熱の原因になることがあります。

安全上のご注意

■充電器について(つづき)

- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。

ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

その他取り扱い上のご注意

- バッテリーをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックを極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- バッテリーパックが満充電されたあとも、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- アンテナを持って、製品を持ち運ばないでください。故障、破損の原因になることがあります。
- 室内で送信すると、電波障害を起こすことがあります。室内で送信するときは、外部アンテナをご使用ください。
- 付属のアンテナは、トランシーバーを手で持ったときに特性がよくなるように設計しています。
- 使用できるのは、日本国内に限られています。

電波法上のご注意

- ◎電波法第59条で『特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない』と通信の秘密に関して定められています。本機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

参考 無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。
以下省略

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検し、障害に応じて弊社サービス窓口やお買い上げの販売店などに相談し、適切な処置をしてください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)、および(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA)

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-10-5 第2川端ビル
TEL 03-3944-8611

(社)日本アマチュア無線連盟 (JARL)

〒170-8073 東京都豊島区巢鴨1-14-5
TEL 03-5395-3111

各バンドのおもな特徴と楽しみかた

IC-S25/IC-S35はそれぞれVHF(144MHz帯)/UHF(430MHz帯)による電波伝搬の特徴を生かした交信が楽しめます。

VHF帯/UHF帯の電波は直進性が高く、建物や山岳などによる減衰や反射で電波の強度が変化し、通信状態に影響を与えます。通信状態への影響はバンドによっても異なり、ビルのなかや市街地などでは影響を受けやすく、通信距離が大きく変化する場合がありますので、相手局に対して見通しのよい場所で運用することをおすすめします。

◇144MHz帯の特徴

144MHz帯はVHF帯のメインストリートと言われています。全国どこへ移動しても交信相手には困りません。また、仲間とのラグチューや連絡用としても役立ちます。

◇430MHz帯の特徴

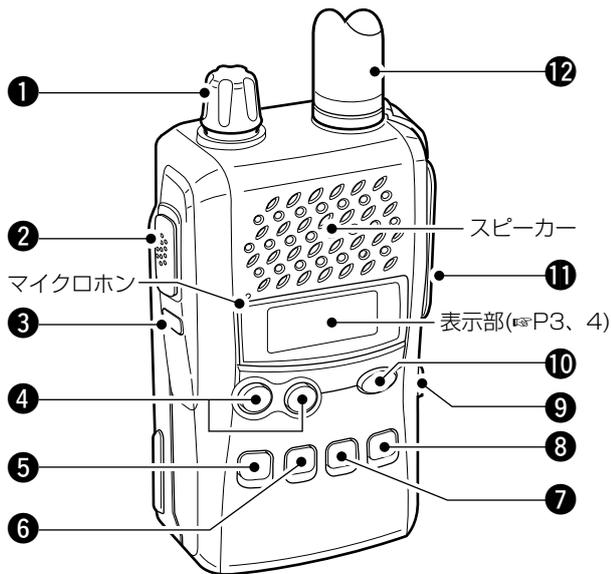
レピータを使用すれば、見通し外の局とも交信できるのが430MHzです。

ハンディー機でも比較的に遠方のレピータにアクセスできるので、交信範囲を大きく広げます。

※本機では、D-STAR[®]レピータにアクセスできませんので、ご注意ください。

1 各部の名称と機能

■ 上面/側面/前面パネル



- 1 音量[VOL]ツマミ (P11, 50)**
音量を調整します。電源投入時の音量レベルは、前回の交信に使用したレベルが設定されます。(P11)
※イニシャルセットモードで[VOL]と[▼]/[▲]キーの機能入れ替えができます。(P50)

- 2 PTT(送信)キー (P13)**
押し続けている間は送信状態、はなすと受信状態に戻ります。

- 3 モニター[MONI]キー (P12, 15)**
- MONI**
- 交信相手の信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくいときや、ノイズを聞きながら音量を調整するときに“ON”にします。
[MONI]を押しているあいだは受信モニター機能が“ON”、はなすと“OFF”になります。(P15)
 - [MONI]を押しながら[▼]/[▲]を押すと、スケルチレベルを調整できます。(P12)

- 4 DOWN[▼]/UP[▲]キー (P12, 23, 32, 39, 50, 60)**
- ▼**
- ▲**
- VFOモードでは周波数の設定、メモリーモードではメモリーチャンネルを呼び出し、セットモードではセット項目を選択します。(P12, 23, 39)
 - スキャン中に[▼]/[▲]を押すと、スキャンの方向を変更できます。(P32, 60)
 - イニシャルセットモードで[VOL]と[▼]/[▲]の機能入れ替えができます。(P50)

- 5 ファンクション[FUNC]キー**
- FUNC**
- [FUNC]を押して、次に該当するキーを押すことにより、各種諸機能が動作します。

6 セットモード切り替え[SET]/トーンスケルチ・DTCSスケルチ切り替え[TONE]キー(☞P39、52、58)



- 押すごとに「セットモード」、「セットモードの解除」を切り替えます。(☞P39)
- 長く(約1秒)押すと「オプションセットモード」に切り替えます。(☞P52)
※オプションセットモードが“ON”のとき。
- [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を押すごとに、通常モード/トーンスケルチ/DTCSスケルチを切り替えます。(☞P58)

7 VFO切り替え[V/M/C]/メモリー書き込み[MW]キー

(☞P14、23、24)



- 押すごとに「VFOモード」、「メモリーモード」、「コールチャンネル」を切り替えます。(☞P14)
- [FUNC]を押してから、[V/M/C(MW)]を短く押すと、セレクトメモリーライト状態になります。(☞P23、24)

8 送信出力調整[H/M/L]/ロック[☞]キー

(☞P13、36、65)



- 押すごとに送信出力を「High」「Middle」「Low」に切り替えます。(☞P13)
- [FUNC]を押してから、[H/M/L(☞)]を短く押すと、プライオリティスキャンを開始します。(☞P36)

- [FUNC]を押してから、[H/M/L(☞)]を長く(約1秒)押すと、キーロック機能がONとなります。(☞P65)
※キーロック機能がONでも、[VOL]、[PTT]、[MONI]、[FUNC]はロックされません。

9 [DC 11V]ジャック(☞P7、10)

- バッテリーパック(付属品)*を充電するとき、充電器(付属品)*を接続します。(☞P7)
*仕様によっては付属していません。
- 別売品のCP-19(シガレットライターケーブル)をお使いになると、外部電源による運用もお楽しみいただけます。(☞P10)

10 電源[PWR]キー(☞P11)



長く(約1秒)押すごとに電源を“ON”/“OFF”します。

11 スピーカー[SP]/マイクロホン[MIC]ジャック

(☞P77、78)

別売品のスピーカーマイクロホンやイヤホンなどを接続するジャックです。

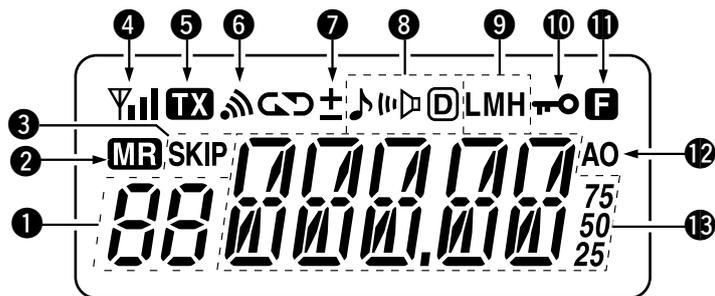
※別売品については、77、78ページをご覧ください。

12 アンテナコネクター(☞P5)

付属品のアンテナを接続するコネクターです。

1 各部の名称と機能

■ 表示部



① メモリー表示部

メモリーバンク、メモリーチャンネル番号、SETモード項目などを表示します。

② メモリーモード表示部(☞P23)

メモリーモード状態を表示します。

③ スキップ表示部(☞P33)

スキップ機能を表示します。

- “SKIP”点灯：メモリーチャンネルのスキップ機能を表示

④ S/Rfインジケータ表示部

受信中は受信した信号の強さを表示します。

※モニター中は“▽”が点滅します。

受信信号の強さ	弱い	←→		強い
Sメーターの表示	▽	▽	▽	▽

送信中はRFインジケータとして表示します。(☞P13)

送信出力	LOW	MIDDLE	HIGH
RFメーターの表示			

5 送信表示部

送信中であることを表示します。

6 ページャーコード受信表示部 (P63)

ページャーコードを受信していることを表示します。

※この機能を使用するには、オプションのDTMF/コードスケルチユニット(UT-108)が必要です。

7 デュプレックス表示部 (P20)

デュプレックス運用モード(-/+を選択していることを表示します。

オートレピータ機能動作中は、“-”と“♪”が表示します。

(P17)

【ご参考】

オートレピータ機能はIC-S35だけに搭載されています。IC-S25ではお使いいただけません。

8 トーンスケルチ/コードスケルチ表示部

(P57、58)

- “♪”点灯 : トーンエンコーダー機能の動作中を表示
- “”点灯 : CTCSS(トーンスケルチ)によるポケットトビープ機能の動作中を表示
- “”点灯 : トーンスケルチ機能の動作中を表示
- “ @”点灯 : DTCS(コードスケルチ)によるポケットトビープ機能の動作中を表示
- “@”点灯 : コードスケルチ機能の動作中を表示

9 送信出力表示部 (P13)

Sメーター表示部と合わせて、送信出力を3段階表示します。

- “L”点灯時 : Low/パワー選択時に点灯します。
- “M”点灯時 : Middle/パワー選択時に点灯します。
- “H”点灯時 : High/パワー選択時に点灯します。

10 ロック表示部 (P65)

キーロック機能が動作していることを表示します。

11 ファンクション表示部

[FUNC]が押された状態を表示します。ファンクションキータイマーの設定により、[FUNC]が押されて、次のキーが押されたあとの[FUNC]の有効時間を設定できます。(P43)

12 オートパワーオフ表示部 (P65)

オートパワーオフ機能が動作していることを表示します。

13 周波数表示部 (P12、39)

運用周波数を表示します。(P12)

SETモード時は設定内容を表示します。(P39)

■ 付属品の取り付けかた

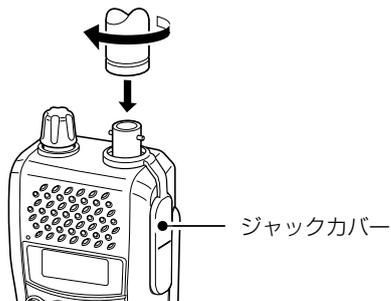
◇ アンテナを取り付ける

アンテナコネクタは、BNC型を使用しています。
アンテナを取り付けるときは、下図のようにアンテナコネクタにさしこみ、時計回りの方向に回してください。

※外部アンテナをご使用になる場合は、BNC型アンテナコネクタをご使用ください。

※ジャックカバーを外したままにしておくと、故障や接触不良の原因となります。

別売品のスピーカーマイクを取り付けるとき以外、ジャックカバーは外さないでください。



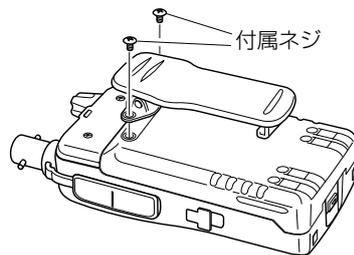
△ 警告

アンテナを持って無線機を振り回したり、投げたりしないでください。

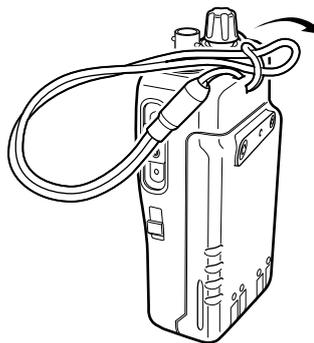
使用者や周囲の人に当たったとき、けがをしたり、本機の故障、および破損の原因となることがあります。

◇ ベルトクリップを取り付ける

ベルトクリップは、付属のネジで取り付けてください。
付属品以外のネジで取り付けないでください。



◇ ハンドストラップを取り付ける

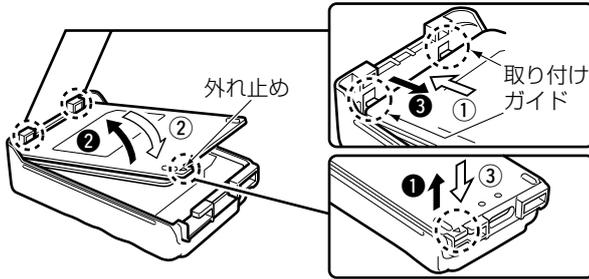


ご使用時や持ち歩くときに、手首に通してお持ちいただくと、落としにくくなります。

■ 電池の入れかた

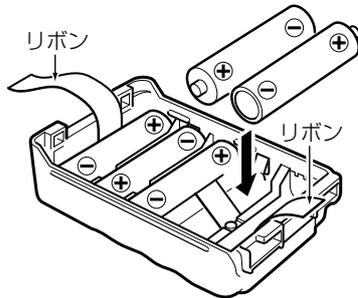
BP-226は単三形アルカリ電池を5本を収容できるバッテリーケースです。電池を挿入するときは以下の手順にしたがってください。

◇ フタをはずす



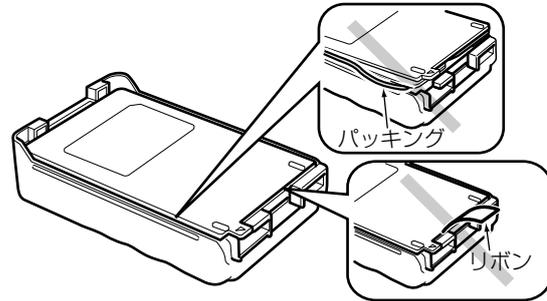
①→②→③の順にフタをはずしてください。

◇ 電池を挿入する



電池の極性⊕(プラス)、⊖(マイナス)をまちがえないように挿入してください。

◇ フタを閉める



「◇ フタをはずす」の図を参考にしながら、①→②→③の手順でフタを閉めます。

※フタを閉めるとき、パッキングやリボンを挟まないようにご注意ください。
パッキングやリボンを挟んだままフタを閉めると、防水性能が落ちて、浸水する恐れがあります。

3 電池/外部電源について

■ バッテリーパック/バッテリーケースの脱着

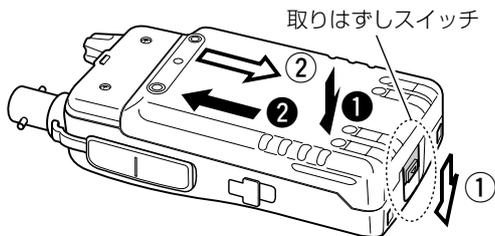
バッテリーパックまたはバッテリーケースは、下図を参照して脱着してください。

● 装着するとき

バッテリーパック/バッテリーケースを①の方向に押しつけ、②の方向にスライドさせて装着します

● 取りはずすとき

本体の[取りはずしスイッチ]を①の方向に押し下げて、バッテリーパック/バッテリーケースを②の方向にスライドさせて取りはずします。



【バッテリーパック/バッテリーケース装着時のご注意】

本機は電源を“OFF”にしても、常に微電流が流れています。本機を使用しないときは、必ずバッテリーパックまたはバッテリーケースを本体から取りはずしてください。

【ご参考】

接触不良などを防ぐため、バッテリーパック/ケースの電源端子を、乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

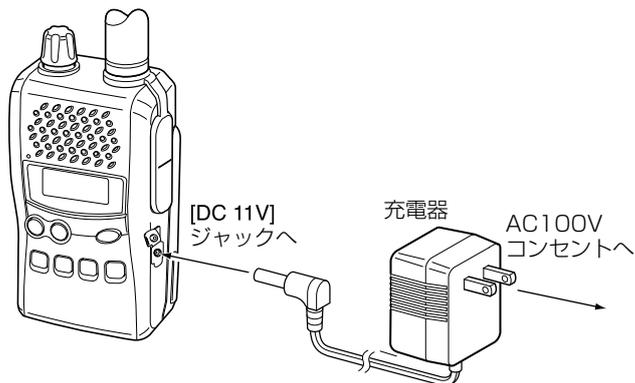
■ 簡易充電のしかた

付属品のBP-227(バッテリーパック)*は、出荷時十分に充電されていません。必ず充電してからお使いください。

- 充電器(付属品)*を使用して、充電してください。
- 充電するときは、必ず本体の電源を切ってください。
- CP-19(別売品)をご使用になる場合、車のシガレットライター(12V系のバッテリー)から電源を供給することにより、運用しながら充電できます。
- 充電時間の目安：約12～13時間

*仕様によっては付属していません。

- バッテリーパックが満充電になると、自動的に充電が止まります。
- 充電時間が15時間を超えると、バッテリーパック保護のため自動的に充電が止まります。



【ご注意】

- 充電するときは、必ず本体の電源を“OFF”にしてください。
- AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- BP-226(バッテリーケース)に市販の単三形ニカド電池などを入れても充電できません。
- BP-227(リチウムイオンバッテリーパック)以外のバッテリーパックは充電できません。
- 本機をご使用にならないとき、またはバッテリーパックを充電しないときは、[DC 11V]ジャックに外部電源(CP-19など)を接続したり、充電器(付属品)*を接続しないでください。
- 弊社指定の充電器以外は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。
- 付属の充電器は充電専用です。ACアダプターとしてお使いになると、故障の原因となりますのでおやめください。

*仕様によっては付属していません。

■ 急速充電のしかた

別売品の急速充電器BC-119N、別売品のスパーサーAD-100をお使いいただくと、バッテリーパックの急速充電ができます。本体にバッテリーパックを装着したまま充電するときは、必ず本体の電源を切ってください。

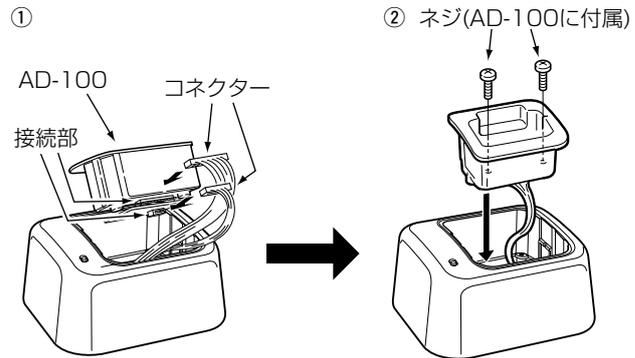
◇ パイロットランプ表示について

別売品の急速充電器BC-119Nのパイロットランプは、充電中は橙色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。

※充電中に橙色の点滅が続くときは充電できません。このような場合は71ページを参照してください。

● BC-119NにAD-100を取り付けるとき

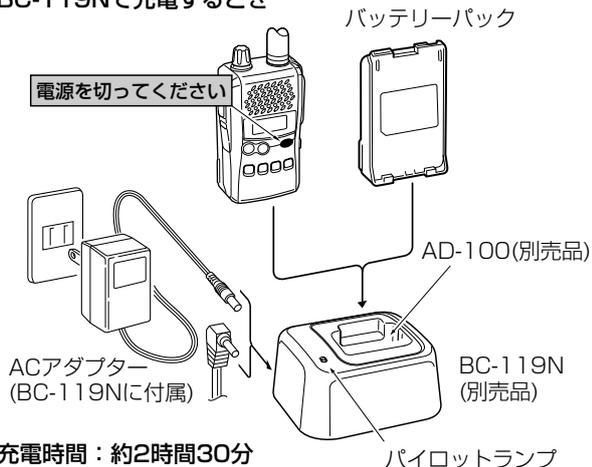
- ① BC-119NのコネクターをAD-100の接続部に接続します。
- ② AD-100に付属のネジでAD-100と充電器を固定します。



3 電池/外部電源について

■ 急速充電のしかた(つづき)

- BC-119Nで充電するとき



- 充電時間：約2時間30分

◇ 運用時間の目安

BP-227(リチウムイオンバッテリーパック)をお使いになると、約7時間運用できます。

運用時間は、送信1、受信1、待ち受け8(オートパワーセーブ)を繰り返し運用した場合での目安です。

BP-226(単三型アルカリ電池(5本)用バッテリーパック)をお使いの場合、アルカリ電池により(メーカーなど)、運用時間が異なります。

【ご注意】

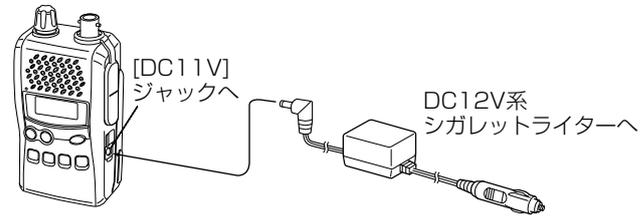
- AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。
- 充電端子は、綿棒や乾いた布でときどき清掃してください。
- 充電器を使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
- 弊社指定の充電器以外は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。

■ 充電時のご注意

- 充電は、必ず指定の充電器をお使いください。
- できるだけ常温(20℃前後)で充電してください。
周囲温度が0℃以下または45℃以上になる場所では、正常に充電されないことがあります。
- バッテリーパックが満充電されたあとに、引き続き充電したり、短時間運用後の再充電の繰り返しはさけてください。
- バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長時間使用しなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。
- 充電器およびバッテリーパックの端子をショートや分解しないでください。感電のおそれがあります。
また、火や水のなかに入れないでください。
爆発のおそれがあります。
- ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
ショートすると電池の破裂、発熱、液もれの原因となり、危険です。
- バッテリーパックは消耗品ですから、充電/放電を繰り返すと運用時間が短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。
- 充電器を使用しないときは、コンセントからはずしてください。
- BP-227は、継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。ただし、短時間運用後、満充電した直後に再充電はしないでください。

■ 外部電源の接続

- 別売品のCP-19(シガレットライターケーブル)をご使用になると、車のシガレットライター(12V系のバッテリー車)から電源を供給できます。
※24V系のバッテリー車の場合は、DC/DCコンバーター(24Vを12Vに変換)が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。



【ご注意】

- [DC 11V]ジャックの動作範囲は5.5～11.0Vです。
12V(車のバッテリーなど)の電源を外部電源ジャックに直接接続しないでください。故障の原因になります。
- 外部電源接続時は動作範囲内の電圧でご使用ください。
- 弊社指定(CP-19)以外の外部電源をご使用になると、故障の原因になります。
- 本機をご使用にならないときは、[DC 11V]ジャックに外部電源(CP-19)を接続しないでください。
- バッテリーパックの電圧より、[DC 11V]ジャックに接続した電圧が低いときは、バッテリーパックからの電源供給になります。

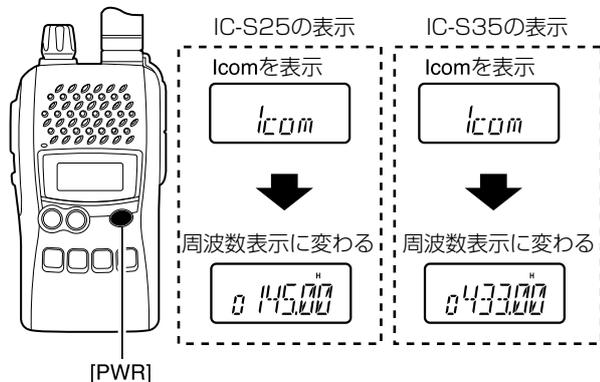
4 基本操作のしかた

■ 電源の入れかた、音量/スケルチ/周波数/送信出力の設定のしかた

◇ 電源を入れる

[PWR]を長く(1秒以上)押します。

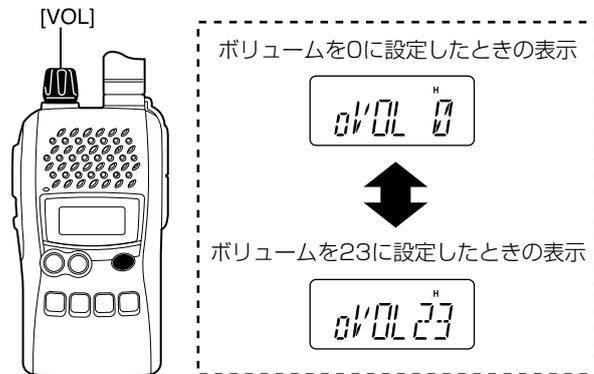
- ビープ音が鳴り、「Icom」を表示したあと、周波数を表示します。
- 電源を切るときも、同じ操作をします。



◇ 音量を調整する

[VOL]を回して、お好みの音量に調整します。

- ※ [PTT]スイッチ以外のキーを押すとビープ音が鳴り、設定した音量を確認できます。
- 表示部に音量レベル(VOL0~VOL23)を表示します。音量レベルは24段階あります。



セットモード、イニシャルセットモードの略記について。

● 本ページ以後の説明で、『セットモードで、「チューニングステップの設定(tS)」項目を選択します。』とは、

- ① [SET(TONE)]を短く押して、セットモードを表示します。
- ② [▼]/[▲]を短く押して、「チューニングステップの設定(tS)」項目を選択します。
の操作を略記したものです。

● 本ページ以後の説明で、『イニシャルセットモードで、「スケルチディレイの設定(Sqt)」項目を選択します。』とは、

- ① [PWR]を長く(約1秒間)押して、いったん電源を切ります。
- ② [▼]、[▲]を同時に押しながら、[PWR]を押して、電源を入れます(イニシャルセットモードを表示します)。
- ③ [▼]/[▲]を短く押して、「スケルチディレイの設定(Sqt)」項目を選択します。
の操作を略記したものです。

◇ スケルチを調整する

[MONI]を押しながら[▼]/[▲]を押して、スケルチレベルの調整をします。信号を受信していない状態で雑音(ザー)が消え、“Ψ”(アンテナマーク)表示が消灯する位置に調整します。

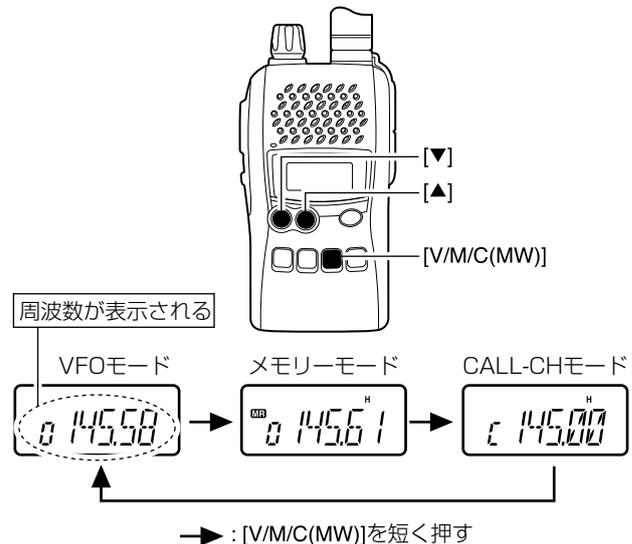
スケルチレベルの調整で、[MONI]を押しながら[▲]を押しすぎると、スケルチレベルが深くなり、弱い信号が受信できなくなることがあります。

なお、スケルチディレイ(遅延)の制御時間を切り替えることができますので、受信信号の強さ(Sメーターレベル)に応じて、切り替えると聞きやすくなります。(※P16、49)



◇ 周波数を設定する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、交信する周波数を設定します。チューニングステップは20kHzステップを初期設定していません。(※P42)



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

4 基本操作のしかた

■ 電源の入れかた、音量/スケルチ/周波数/送信出力の設定のしかた(つづき)

◇ 送信出力を設定して交信する

送信する前に、運用する周波数を他局が使用していないか確かめ、妨害・混信を与えないようにご注意ください。

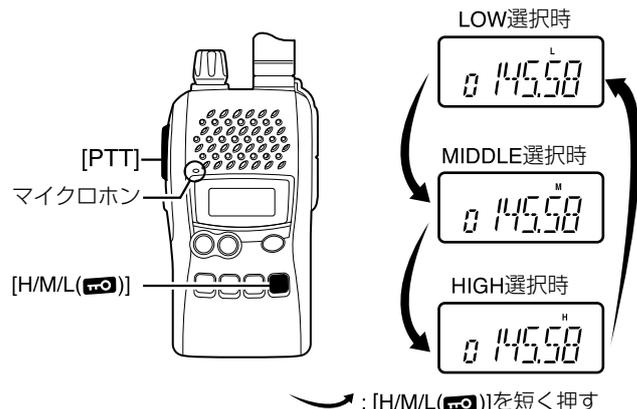
- ① [H/M/L ()] を短く押すごとに、LOWパワー“L”→MIDDLEパワー“M”→HIGHパワー“H”→LOWパワー“L”の順に送信出力が切り替わります。送信出力は次のようになっています。

	Low	Middle	High
IC-S25	0.5W	4.0W	7.0W
IC-S35	0.5W	2.0W	5.0W

- ② 送信するときは、[PTT] を押しながら、マイク部に向かって話します。
マイクロホンと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話してください。(送信中は  表示点灯)
設定した送信出力によって、RFインジケータのバーが点灯します。
- ③ [PTT] をはなすと、受信状態に戻ります。
信号を受信すると、受信レベルによって、Sインジケータのバーが点灯します。

バンドの使用区別(バンドプラン)を厳守のうえ、運用してください。(P76)

交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

【ご注意】

- タイムアウトタイマー機能(P48)をOFFまたは15分以上に設定し、連続送信した場合、送信による発熱のため本体が高温になりますので、やけどなどにご注意ください。
- 気温/室内温度の高い場所で本機をお使いになった時や、本体が高温になった時、本体の保護回路が動作するため、ハイパワー時の送信出力が、IC-S25の場合は約3Wに、IC-S35の場合は約2.5Wになります。
- 付属のリチウムイオンバッテリーパック*は、高温になるとバッテリーパック内の保護回路が動作し、電源供給を遮断します。(P48)
*仕様によっては付属していません。

■ 運用モード[VFO/メモリー(M-CH)/コールチャンネル(CALL-CH)]の切り替えかた

◇ VFOモードにするには

[▼]/[▲]で設定した周波数で運用するモードです。

表示部に“**MEM**”が表示されているときは、[V/M/C(MW)]を短く2回、“**CALL**”が表示されているときは、[V/M/C(MW)]を短く1回押すと、VFOモードに設定されます。

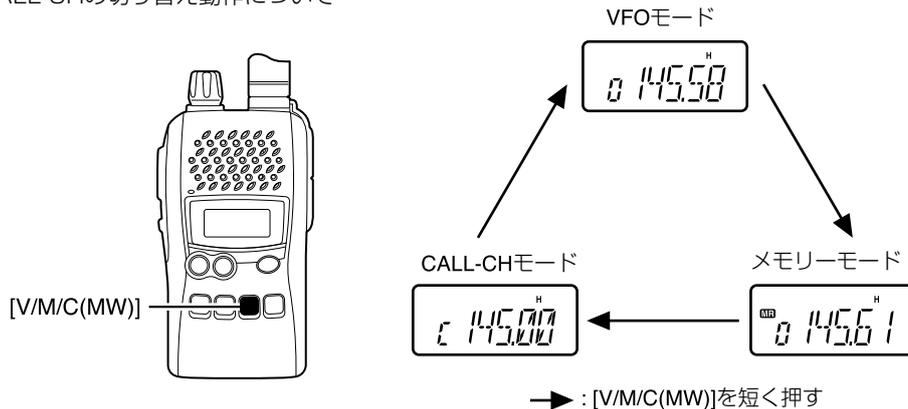
◇ M-CHモード/CALL-CHモードにするには

あらかじめ記憶させたM-CH、またはアマチュアバンドで決められた呼び出し周波数をメモリーしたCALL-CHを呼び出して運用するモードです。CALL-CHの初期設定値はIC-S25が145.000MHzに、IC-S35が433.000MHzに設定されています。(※P22)

メモリーモードにするには、表示部に“**MEM**”が表示されるまで、[V/M/C(MW)]を短く押します。

CALL-CHにするには、表示部に“**CALL**”が表示されるまで、[V/M/C(MW)]を短く押します。

● VFO/メモリー/CALL-CHの切り替え動作について



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

4 基本操作のしかた

■チューニングステップを変えるには

チューニングステップとは、[▼]/[▲]で周波数をセットするとき、変化する周波数の幅をいいます。

チューニングステップは、5kHz/10kHz/12.5kHz/15kHz/20kHz/25kHz/30kHz/50kHzの中から選択できます。

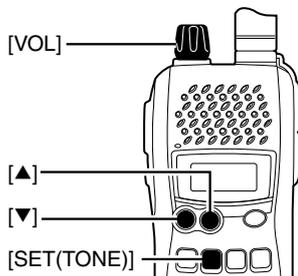
チューニングステップは、セットモードで選択できます。(※P42)

- ① セットモードで、「**チューニングステップの設定 (tS)**」項目を選択します。(※P42)



- ② [VOL]を回して、5kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHzの中から選択します。
- ③ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。

[MONI]、[PTT]を短く押しても、セットモードを解除して周波数表示に戻ります。



■受信モニター機能について

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に効果があります。

- ① [MONI]を押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。“▽”(アンテナマーク)表示が点滅して、モニター機能を表示します。
- ② [MONI]をはなすと、モニター機能を解除します。モニター機能の動作中、周波数の変更はできません。※モニター機能がキーを押しているあいだ動作させるか、1回押すごとに“ON/OFF”させるかをインシャルセットモードで設定できます。(※P51)



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

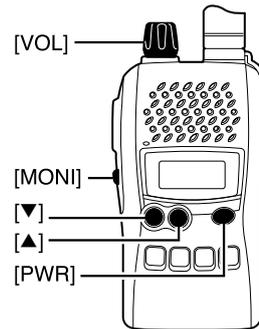
■スケルチディレイの設定

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間をイニシャルセットモードで選択できます。

- ① イニシャルセットモードで、「スケルチディレイの設定(Sqt)」項目を選択します。(※P49)



- ② [VOL]を回して、「S(Short)」または「L(Long)」を選択します。
- Sqt. S : スケルチディレイ(遅延)時間を「S(Short)」にします。(初期設定値)
 - Sqt. L : スケルチディレイ(遅延)時間を「L(Long)」にします。
- ③ [PWR]を短く押すと、周波数表示に戻ります。



スケルチディレイを“S”
に設定したとき



スケルチディレイを“L”
に設定したとき

5

レピータ/デュプレックスの操作

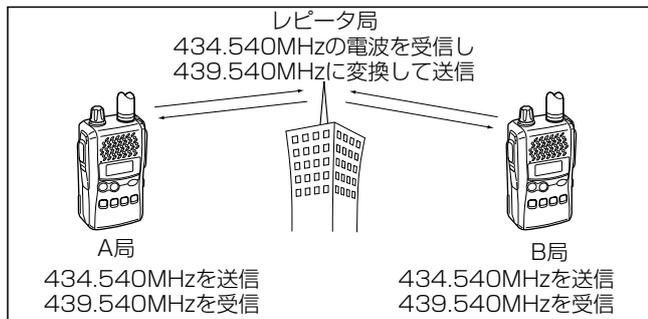
■オートレピータ機能での交信(IC-S35のみ)

IC-S35は、オートレピータ機能を搭載しており、周波数を439.000MHz~440.000MHzに合わせるだけで、レピータ運用モードになります。

※ 144MHz帯は、レピータが設置されていませんので、IC-S25ではこの機能は動作しません。

※ レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局のことをいいます。

※ オートレピータ機能は、イニシャルセットモードの「**オートレピータ機能の設定(RPt)**」項目で無効にすることもできます。(P48)



※ 430MHz帯では、各地区にレピータが設置されているので、JARL NEWSや各専門誌、インターネットなどでお調べください。

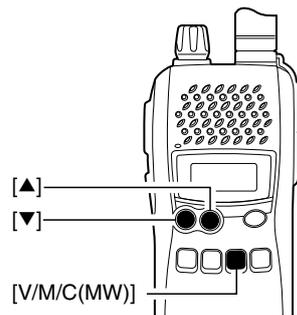
【ご注意】

本機では、D-STAR®レピータにアクセスできませんので、ご注意ください

◇レピータ周波数を設定する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、交信する周波数を設定します。
439.000MHz~440.000MHzに合わせます。
“_♪”を表示して、トーン周波数(88.5Hz/初期設定値)とオフセット周波数(5.000MHz/初期設定値)が自動的に設定されます。

※送信と受信の周波数のずれ幅のことをオフセット周波数といいます。



【ご注意】

レピータ用トーン周波数(P41)とオフセット周波数(P20、42)を変更したときは、オートレピータ機能のトーン周波数/オフセット周波数も変更されます。

◇ レピータにアクセスする

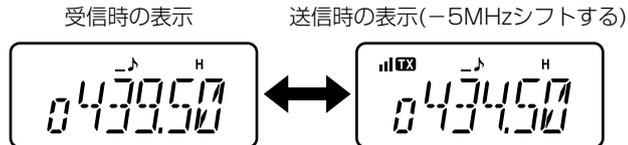
[PTT]を約2秒間押したあと、[PTT]をはなします。

※ 発射した電波がレピータに届いていれば、受信状態に戻ったときに、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。
 なお、タイミングにより、ID信号が聞こえない場合もあります。



◇ 交信する

[PTT]を押すと送信状態、はなすと受信状態に戻ります。



◇ オートレピータ機能の解除のしかた

オートレピータ機能は、イニシャルセットモードで解除できます。

- ① イニシャルセットモードで、「オートレピータ機能の設定 (RPt)」項目を選択します。(P48)



- ② [VOL]を回して、「RPt.OF」を選択します。



- **RPt.ON** : オートレピータ機能を有効にします。
(初期設定)
 - **RPt.OF** : オートレピータ機能を無効にします。
- ③ [PWR]を短く押すと、イニシャルセットモードを解除します。

5 レピータ/デュプレックスの操作

■ オートレピータ機能での交信(IC-S35のみ) つづき

◇ 送信周波数のチェック

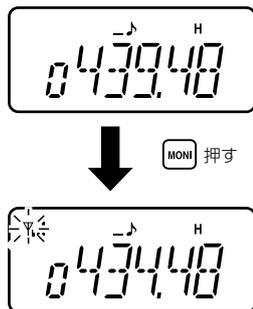
レピータの運用中に、レピータを中継しなくても交信可能かどうかチェックできます。

[MONI]を押して、交信相手の信号が受信できれば、レピータを中継しなくても交信できます。

※ モニター機能動作時は、“▽”(アンテナマーク)表示が点滅します。

※ [MONI]を押して、信号が受信できるときは、439.000 MHz以下の周波数に移って交信しましょう。

※ モニター機能動作時は、オフセット周波数分だけ周波数表示がシフトします。



◇ 送信時のオフバンド表示について

オフセット周波数を変更(P20、42)したときは、オートレピータ機能のオフセット周波数も変化するのでご注意ください。

※ 送信したときにアマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数を設定すると、送信出力は停止して周波数表示部に“OFF”を表示し、オフバンドしていることを知らせます。



※ オフバンド表示になったときは、もう一度オフセット周波数を設定しなおしてください。

■デュプレックスの運用

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)と違い、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することをいいます。

- 「dUP +(プラス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数*だけ高くなります。
- 「dUP -(マイナス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数*だけ低くなります。

*送信と受信の周波数のずれ幅のことをオフセット周波数といいます。

◇オフセット周波数を設定する

オフセット周波数は、セットモードで設定できます。(☞P42)

- ①メモリーモードのときは[V/M/C(MW)]を2回、コールチャンネルのときは1回短く押して、VFOモードにします。
- ②セットモードで、「オフセット周波数の設定」項目を選択します。(☞P42)



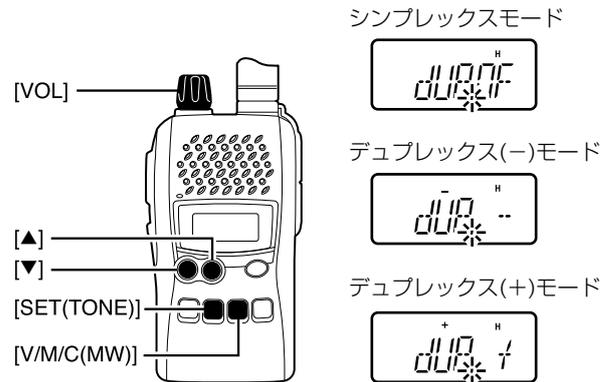
- ③ [VOL]を回して、オフセット周波数を設定します。
 なお、オフセット周波数のチューニングステップは、セットモードのチューニングステップで設定できます。(☞P42)
0.000~20.000MHzの範囲で設定できます。
IC-S25は“0.000MHz”を初期設定しています。
IC-S35は“5.000MHz”を初期設定しています。
- ④ [SET(TONE)]、[MONI]、[PTT]スイッチのどれかを短く押すと、セットモードを解除します。

◇デュプレックスモードを設定する

- ①メモリーモードのときは[V/M/C(MW)]を2回、コールチャンネルのときは1回短く押して、VFOモードにします。
- ② [▼]/[▲]を押して、交信する周波数を設定します。
- ③セットモードで、「デュプレックスの設定(dUP)」項目を選択します。(☞P42)



[VOL]を回して、「dUP.OF(シンプレックス)」→「dUP.-(マイナス)」→「dUP.+(プラス)」とデュプレックスモードを切り替えます。

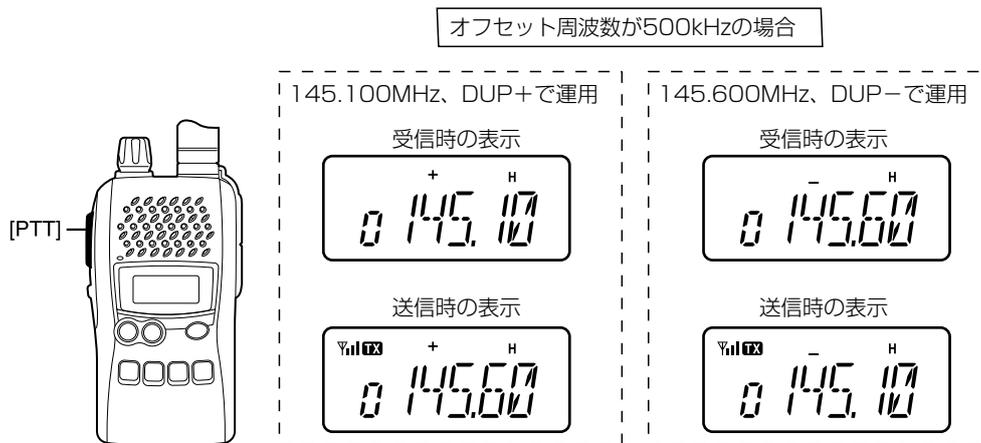


5 レピータ/デュプレックスの操作

■デュプレックスの運用 (つづき)

◇交信する

[PTT]スイッチを押すと送信状態、はなすと受信状態に戻ります。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

■メモリーモードについて

よく使用する周波数や運用情報などを、あらかじめメモリーチャンネルに記憶させておき、すばやく呼び出して運用するためのモードです。

- 本機には、通常のメモリーチャンネル(M-CH)として100CH、プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)として6CH(3組)(1A/1B～3A/3B)、およびコールチャンネル(CALL-CH)として1CH(C)の合計107CHを内蔵しています。
- メモリーチャンネル(M-CH)を運用する際は、メモリーモードにします。
メモリー(記憶)していないチャンネルは呼び出さないので、すばやく目的のメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出せます。
- メモリーチャンネル(M-CH)に記憶する際は、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◆ M-CHに記憶できる内容について

すべてのメモリーチャンネル(M-CH)で運用周波数のほかに、下記の内容を記憶します。

- 「デュプレックスのON/OFF」、「シフト方向(+/-)」、「デュプレックスの反転」、「オフセット周波数」、「トーンスケルチのトーン周波数と運用モードのON/OFF」、「レピーターアクセス用トーン周波数」「DTCSコード・極性」、「メモリーバンク」、「スキップチャンネル」、「チューニングステップ」、「送信出力設定」、「メモリーネーム」、「送信の禁止」
- オプションのDTMF/コードスケルチユニットを取り付けたとき、「ページャー/コードスケルチの設定」も記憶します。

◆表記について

- 以後の説明において、メモリーチャンネルは(M-CH)、プログラムスキャン用チャンネルは(PROGRAM-CH)、コールチャンネルは(CALL-CH)と略記します。

◇ M-CHの初期設定値について

チャンネル	おもな用途
0～99 (M-CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● 通常のM-CHとして使用する ● 工場出荷時に記憶している内容 “0”：145.000MHz(IC-S25)、 433.000MHz(IC-S35) ※ 1～99は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
1A/1B～ 3A/3B (PROGRAM-CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムスキャンの周波数設定用(3組、6CH) ● 工場出荷時、すべてブランクチャンネルのため表示しません 希望の周波数範囲(下限周波数と上限周波数)を書き込んでください。
C (CALL-CH)	<ul style="list-style-type: none"> ● アマチュアバンドの呼び出し周波数をセットしています “C”：145.000MHz(IC-S25)、 433.000MHz(IC-S35) ※ 通常のM-CHとして使用できます。

6 メモリーチャンネルの操作

■ M-CHの呼び出しかた

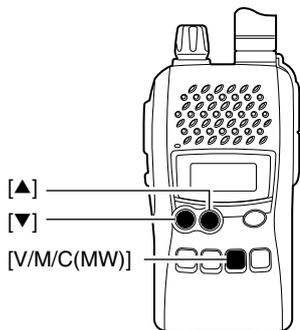
メモリーしていないM-CHを呼び出すことはできません。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
メモリーモードが選択されると、表示部に“MR”が点灯します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

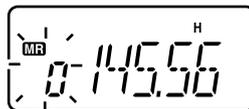
- ② [▼]/[▲]を押します。
書き込まれているM-CHだけを呼び出します。



◇ すべてのM-CHを呼び出す

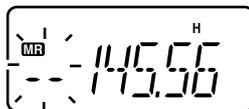
- ① [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。(M-CH表示部が点滅します。)
- ② [▼]/[▲]を押すと、すべてのM-CHを呼び出せます(書き込まれていないM-CHも呼び出せます)。
- ③ [MONI]、[SET(TONE)]、[H/M/L()]のいずれかを短く押すと、セレクトメモリーライト状態を解除します。

- VFOモードからセレクトメモリーライト状態にしたとき

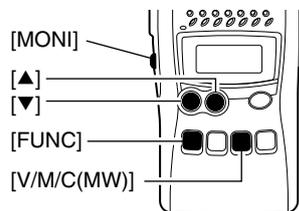


※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

- メモリーモードからセレクトメモリーライト状態にしたとき



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。



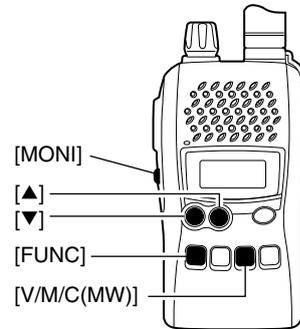
■メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

M-CH、CALL-CH、PROGRAM-CHへの書き込み、または書き替えをします。
工場出荷時は、M-CHの“0～99”までがブランクチャンネルになっています。

◇M-CHの書き込みかた

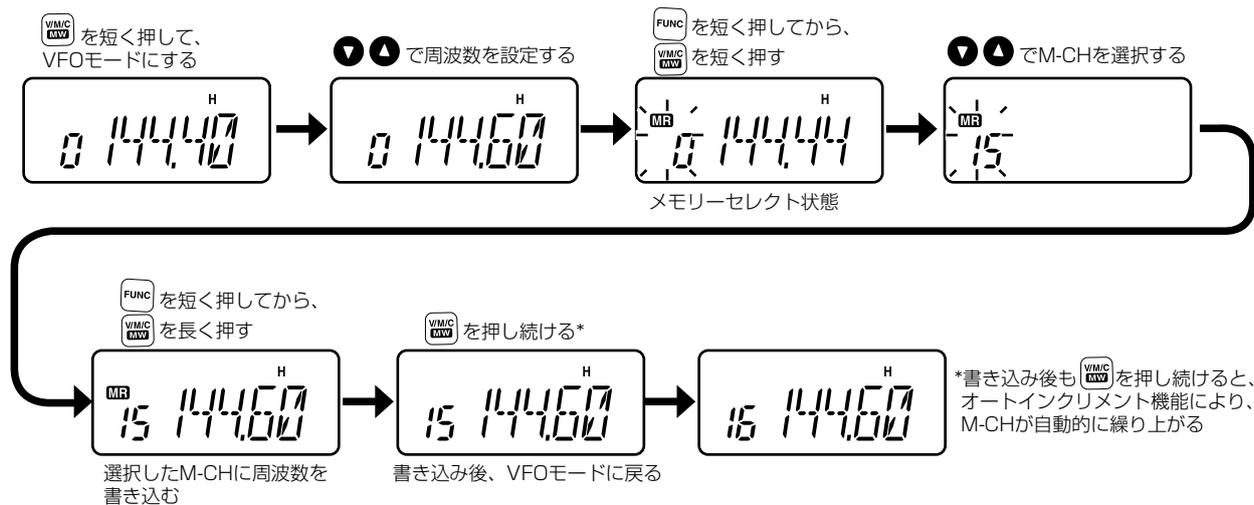
《例》IC-S25でM-CH“15”に“144.60MHz”をメモリーする。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、周波数(144.60MHz)を設定します。
- ③ [FUNC]を短く押し、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ④ [▼]/[▲]を押して、M-CH“15”を選択します。
“C”を選択するとCALL-CHに書き込みます。
“--”を選択するとVFOに書き込みます。
“1A/1B～3A/3B”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑤ [FUNC]を短く押し、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、周波数をメモリーに書き込み、メモリー内容を表示してVFOモードに戻ります。



6 メモリーチャンネルの操作

■メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた (つづき)



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

◇書き込み後のオートインクリメントについて

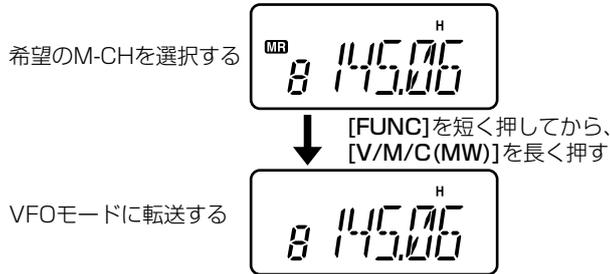
24ページの手順⑤で書き込み完了後も[V/M/C(MW)]を押し続ける(ピッ、ピピ ピーが鳴るまで)と、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。

M-CHを続けて書き込みをするときに便利な機能です。

◇M-CHの内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CH、またはCALL-CHの周辺に移って交信する場合などに便利な機能です。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、希望のM-CHを呼び出します。
- ③ [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押します。
M-CHの内容をVFOに転送して、VFOモードになります。

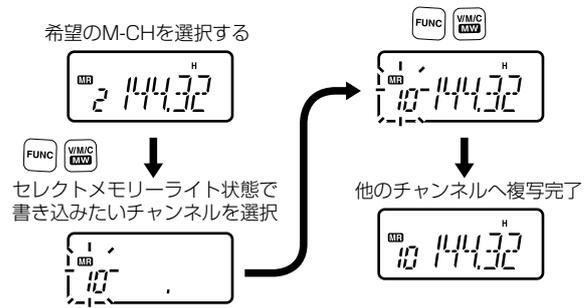


※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

◇M-CHの内容を他のチャンネルへ複写するには

M-CHの内容をCALL-CHや、プログラムスキャン用周波数として複写する場合に便利な機能です。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、複写元のM-CHを呼び出します。
- ③ [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ④ [▼]/[▲]を押して、複写したいM-CHを選びます。
“C”を選択するとCALL-CH、“--”を選択するとVFO、“1A/1B~3A/3B”を選択するとPROGRAM-CHに書き込みます。
- ⑤ [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、複写します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

6 メモリーチャンネルの操作

■ M-CHをバンクで編集する

本機のM-CHは107CHあります。
CALL-CHを除く106CHに書き込んだM-CHの内容を10個のバンク(A、B、C、D、E、F、G、H、I、J)に分割して編集できます。

各バンクには、0～99および1A～3BのすべてのM-CHを割り当てることができます。

◇ M-CHとバンクの使用例

※IC-S25でバンク編集する場合の例です。

M-CHの内容		バンクの内容
001 144.000MHz	A	A (バンク) 144.000MHz } 144.140MHz } 144.000MHz 144.040MHz } を編集する 144.440MHz } 144.300MHz }
002 144.140MHz	A	
003 144.510MHz	B	
004 145.120MHz		
005 145.340MHz	A	
006 144.040MHz	B	B (バンク) 144.501MHz } 144.510MHz } 144.501MHz 144.560MHz } を編集する 145.000MHz } 144.720MHz }
007 144.560MHz		
008 145.480MHz		
009 144.560MHz		
010 145.620MHz		
011 144.050MHz	C	C (バンク) 145.200MHz } 145.125MHz } 145.001MHz 145.700MHz } を編集する 146.000MHz } 145.870MHz }
012 145.200MHz	C	
013 145.250MHz	C	
014 145.125MHz	A	
015 144.440MHz	B	
016 145.850MHz		
017 144.720MHz		
018 145.050MHz		
019 144.700MHz	C	
020 144.795MHz	A	
021 145.700MHz		
022 144.300MHz		
099 145.870MHz	C	

◇ バンクのM-CH表記について

各バンクに編集されたM-CHは、書き込んだ順に編集されます。
また、各バンクで編集したバンクのチャンネル番号は表示されません。

メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集元のM-CHを変更または更新するとメモリーバンクの内容も変更されます。

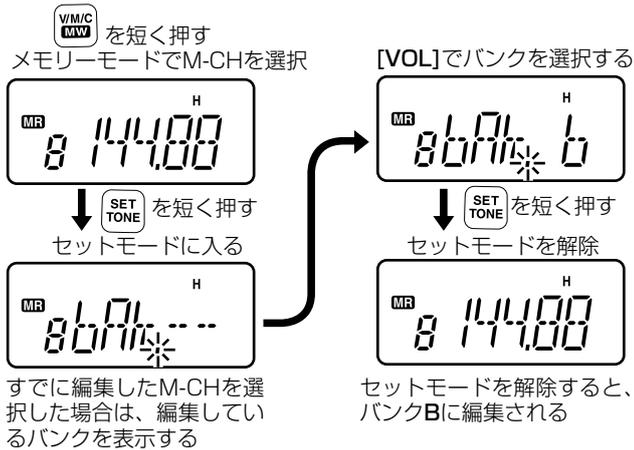
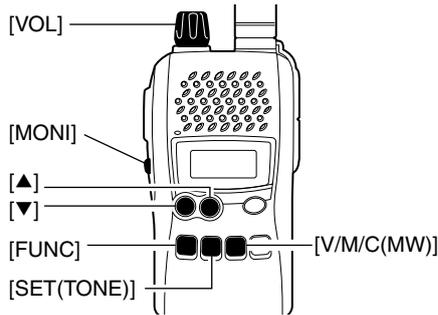
◇ 編集のしかた

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、バンクに編集するM-CHを選びます。
- ③ セットモードで、「メモリーバンクの設定(bAk)」項目を選択します。(※P44)



- ④ [VOL]を回して、メモリーバンク(A～J)を選択します。
※バンクを解除するときは、[VOL]を回して“bAk. --”を選択します。
- ⑤ [SET/TONE]または[MONI]を短く押すと、選択したメモリーバンクに書き込み、セットモードを解除します。

●メモリーバンク編集の操作



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

◇メモリーバンクに編集した内容を確認するには

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [FUNC]を短く押してから、[MONI]を短く押し、[VOL]を回して、メモリーバンク(A~J)を選択します。(メモリー表示部が点滅します)
- ③ [MONI]を短く押すと、メモリー表示部が点滅から点灯に変わります。
- ④ [▼]/[▲]を押すと、メモリーバンクに編集した内容呼び出します。
VFOモードに戻るときは、[V/M/C(MW)]を短く2回押します。
メモリーチャンネルモードに戻るときは、[FUNC]を短く押してから、[MONI]を短く押し、[VOL]を回して、メモリーチャンネルを選択して、再度[MONI]を短く押します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

6 メモリーチャンネルの操作

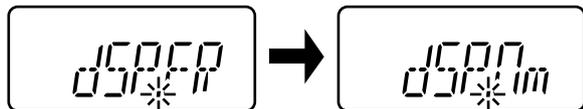
■メモリー名の使いかた

メモリーに記憶しているM-CHにアルファベット、数字、記号を使用して、5文字以内で名前(ネーム)を入力できます。

◇メモリー名を入力する

《例》M-CH“30”に“LOCAL”のメモリー名を入れる場合

- ① イニシャルセットモードで、「メモリーモード中の表示設定(dSP)」項目を選択します。(※P50)
- ② [VOL]を回して、「メモリー名表示(dSP.nm)」項目を選択します。



- ③ [PWR]を短く押してイニシャルセットモードを解除します。
- ④ [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードに入り、[▼]/[▲]を押して、メモリー番号“30”を選択します。
すでに名前が登録されているときは名前を表示、未登録のときは周波数表示となります。
- ⑤ [SET(TONE)]を短く押すと、メモリー名設定画面となり、ネームの1桁目が点滅します。



- ⑥ [VOL]を回して、1桁目の文字“L”を選びます。
- ⑦ [▼]/[▲]を押して、文字を入れる桁を選びます。
- ⑧ 前述⑥、⑦を繰り返して、“O”、“C”、“A”、“L”、を入力します。
メモリー名は5文字以内で入力します。
- ⑨ [SET(TONE)]を短く押すと、メモリー名を書き込んで、メモリー名設定画面を解除します。
※ ネームを訂正したいときは、メモリー名を入れなおしてください。
最後に入れた名前が有効となります。



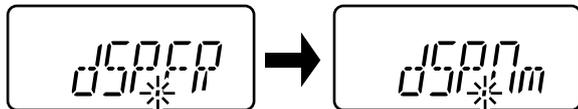
●文字入力一覧表

(space)	1(+)	2(-)	3(=)	4(*)	5(/)	6(l)	7(l)	8(l)	9(0)
1(1)	2(2)	3(3)	4(4)	5(5)	6(6)	7(7)	8(8)	9(9)	A(A)
b(B)	c(C)	d(D)	e(E)	f(F)	g(G)	h(H)	i(I)	j(J)	k(K)
L(L)	m(M)	n(N)	O(O)	P(P)	q(Q)	r(R)	s(S)	t(T)	U(U)
v(V)	w(W)	x(X)	y(Y)	z(Z)					

◇メモリー名を表示するには

メモリー名の表示は、イニシャルセットモードで設定します。

- ① イニシャルセットモードで、「メモリーモード中の表示設定 (dSP)」項目を選択します。(P50)
- ② [VOL]を回して、「メモリー名表示(dSP.nm)」項目を選択します。



- ③ [PWR]を短く押して、イニシャルセットモードを解除します。
- ④ [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードに入り、[▼]/[▲]を押して、名前を入れたM-CHを選びます。(29ページのM-CH“30”を選択したときを例とします。)



周波数表示に戻すときは、いったん電源を切って、イニシャルセットモードで「メモリー名表示 (dSP.nm)」項目 (P50) を選択して、「メモリーの周波数表示 (dSP.FR)」項目を選択してください。

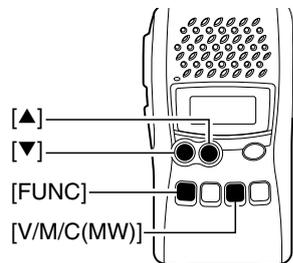
■メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHを消去します。

いったん消去したM-CHの内容は、元にもどせないのご注意ください。

◇メモリーの内容を消去する

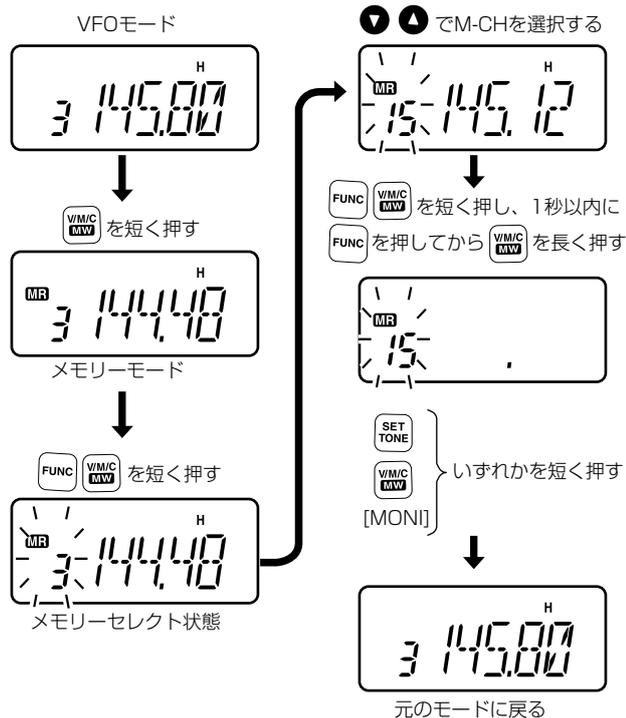
- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
[V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [FUNC]を短く押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
(M-CH表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。)
- ③ [▼]/[▲]を押して、消去したいM-CHを選びます。
- ④ [FUNC]を押してから、[V/M/C(MW)]を短く押して、1秒以内にもう一度、[FUNC]を押してから、[V/M/C(MW)]を長く(ピッ ピピと鳴るまで)押しすと、メモリー内容を消去して、セレクトメモリーライト状態になります。
- ⑤ 消去後、[SET(TONE)]、[MONI]または[H/M/L (TONE)]のどれかを押しと、セレクトメモリーライト状態を解除します。



6 メモリーチャンネルの操作

■ メモリークリア(消去)のしかた (つづき)

● メモリークリアの操作



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた

CALL-CHとは、各バンドで決められた呼び出し周波数のことで、メインチャンネルとも呼ばれています。

● IC-S25のコールチャンネル C : 145.000MHz

● IC-S35のコールチャンネル C : 433.000MHz

通常のM-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き替えられるので、使用頻度の高い周波数を記憶しておく便利です。

CALL-CHの呼び出し、以前に使用していた運用モードに戻りたいときは、次のようにします。

- ① [V/M/C (MW)] を短く押して、CALL-CHを呼び出します。押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② 以前に使用していた運用モードに戻りたいときは、[V/M/C (MW)] を1回押すとVFOモード、[V/M/C (MW)] を2回押すとメモリーモードに戻ります。

CALL-CHを書き替えるときは次のようにします。

- ① [V/M/C (MW)] を短く押して、VFOモードにします。押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲] を押して、書き替える周波数を設定します。
- ③ [FUNC] を短く押してから、[V/M/C (MW)] を短く押して、セレクトメモリーライト状態にします。
- ④ [▼]/[▲] を押して、CALL-CHを選択します。周波数の前に“C”を表示します。
- ⑤ [FUNC] を短く押してから、[V/M/C (MW)] を長く押すと、CALL-CHの周波数が書き替わります。

■ スキヤンについて

スキヤンとは、周波数やM-CHを自動的に切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

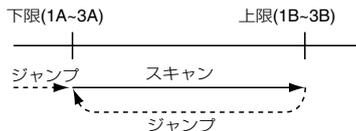
VFOモードのスキヤン

● フルススキヤンの動作(☞P34)



本機に定められた周波数範囲をスキヤンします。

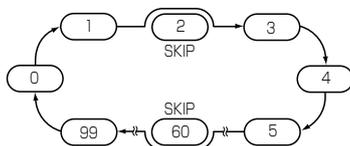
● プログラムスキヤンの動作(☞P34)



プログラムスキヤン用チャンネル(PROGRAM-CH)に書き込まれた周波数範囲をスキヤンします。

メモリーモードのスキヤン

● メモリー/メモリーバンクスキヤンの動作(☞P35)



メモリーチャンネル、または指定したバンクに編集されたM-CHをスキヤンします。

※メモリーバンクスキヤン時は、周波数表示のみ切り替わる。

◇ スケルチの調整

通常は雑音が消え“▽”(アンテナマーク)表示が消灯する位置にセットしておきます。

スキヤン動作中でも、スケルチの調整ができます。

◇ スキヤン中の[▼]/[▲]について

- スキヤン中に[▼]/[▲]を押すと、押したボタンの方向でアップスキヤンとダウンスキヤンを切り替えます。
- 信号を受信してスキヤンを一時停止しているときに、[▼]/[▲]を押すと即時再スタートします。

◇ スキヤン中のステップについて

スキヤン中に周波数を切り替えるステップ幅は、あらかじめ設定しているチューニングステップ(☞P15、42)で動作します。

◇ スキップ機能について

すべてのスキヤンでスキップチャンネル(必要のないM-CHをスキヤンから除外する)の指定ができます。

スキップチャンネルの指定と解除のしかたについては、33ページを参照してください。

7 スキャンの操作

■ スキャンについて (つづき)

◇ 信号を受信すると

スキャン中に信号を受信すると、その周波数で約15秒(初期設定)間停止して受信します。

約15秒経過すると、自動的に再スタートします。

◇ 再スタートの条件設定

再スタートの条件は、セットモードで変更できます。

- ① セットモードで、「**スキャンストップタイマーの設定(SCt)**」項目を選択します。(※P43)



- ② [VOL]を回して、再スタートの条件を選択します。
 - **SCt. 5** : 一時停止してから5秒後に再スタートします。
 - **SCt. 10** : 一時停止してから10秒後に再スタートします。
 - **SCt. 15** : 一時停止してから15秒後に再スタートします。(初期設定値)
 - **SCP. 2** : 信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。
- ③ [SET(TONE)]または[MONI]を短く押すと、セットモードを解除します。

◇ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
 - ※メモリーネーム表示、またはチャンネル番号表示になっているときは、イニシャルセットモードで周波数表示に設定してください。(※P50)
- ② セットモードで、「**スキップチャンネル(CHs)**」の設定項目を選択します。(※P44)
- ③ [VOL]を回して、「**CHs.ON**」または「**CHs.OF**」を選択します。
 - **CHs.OF** : メモリーチャンネルのスキップ機能を解除します。(初期設定値)
 - **CHs.ON** : “**SKIP**”表示が点灯します。
メモリースキャン時、指定したM-CHをスキップします。
- ④ [MONI]または[SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

■VFOスキャンのしかた

◇フルスキャン/プログラムスキャンの操作

- フルスキャンは、本機に定められた周波数範囲をスキャンします。

表示：AL : フルスキャン動作となります。

- プログラムスキャンは、次の周波数範囲をスキャンします。

表示：P1 : 1A/1Bに設定された周波数範囲をスキャンします。

表示：P2 : 2A/2Bに設定された周波数範囲をスキャンします。

表示：P3 : 3A/3Bに設定された周波数範囲をスキャンします。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。

押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。

- ② [FUNC]を押したあと、[▲]を押すと、高い周波数のほうにVFOスキャンを開始します([▼]を押すと、低い周波数のほうにVFOスキャンを開始します)。

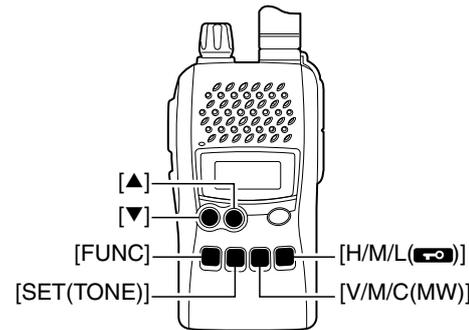
(メモリー表示部にスキャンガイダンス表示が点滅します。) スキャン中に[SET(TONE)]を短く押すと、フルスキャン、プログラムスキャンを切り替えることができます。

- ③ [V/M/C(MW)]または[H/M/L]を短く押すと、フルスキャン、プログラムスキャンを解除します。

※[FUNC]を押したあと、[▼]/[▲]を短く押しても、フルスキャン、プログラムスキャンを解除しません。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。



【ご注意】

A、Bチャンネルに同じ周波数を入力した場合(例：0Aと0Bに438.500MHzを書き込んだ場合)、プログラムスキャンは動作しません。

7 スキャンの操作

■メモリスキャンのしかた

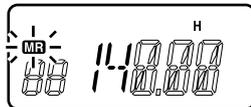
◇メモリスキャンの操作

メモリスキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出すスキャンです。

スキップチャンネルに指定したM-CH(MBが点灯)は、スキャンスタート操作をしたとき、そのM-CHをスキップしてスキャンします。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [FUNC]を押したあと、[▲]を押すと、M-CH番号の大きいほうにメモリスキャンを開始します([▼]を押すと、M-CH番号の小さいほうにメモリスキャンを開始します)。(メモリー表示部にスキャンガイダンス表示が点滅します。)
- ③ [V/M/C(MW)]または[H/M/L()]を短く押すと、メモリスキャンを解除します。
※[FUNC]を押したあと、[▼]/[▲]を短く押しても、フルスキャン、プログラムスキャンを解除します。

メモリスキャンの表示



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

【ご注意】

2ch以上M-CHが書き込まれていないときは、メモリスキャンは動作しません。

■メモリーバンクスキャンのしかた

◇メモリーバンクスキャンの操作

指定したバンクに編集されたM-CH(周波数)をスキャンします。

※バンクに編集したチャンネル番号は表示されません。

※セットモードでメモリーバンクのリンク機能(※P45)が設定されている場合は、リンクしているバンクもスキャンします。

※スキップが指定されたM-CH(周波数)はスキップしてスキャンします。

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [FUNC]を短く押してから、[MONI]を短く押し、メモリーバンク選択状態にします。
(メモリー表示部が点滅します)。
選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクを表示します。
- ③ [VOL]を回して、メモリーバンク(A~J)を選択します。
- ④ [MONI]を短く押して、バンクを設定します。
(バンク表示部が点滅から点灯に切り替わります。)
- ⑤ [FUNC]を押したあと、[▲]を押すと、同じメモリーバンク内のM-CH番号の大きい方にメモリーバンクスキャンを開始します([▼]を押すと、M-CH番号の小さいほうにメモリーバンクスキャンを開始します)。(メモリー表示部にスキャンガイダンス表示が点滅します。)
- ⑥ [V/M/C(MW)]または[H/M/L()]を短く押すと、メモリーバンクスキャンを解除します。
※[FUNC]を押したあと、[▼]/[▲]を短く押しても、フルスキャン、プログラムスキャンを解除します。

■ プライオリティスキャンについて

プライオリティスキャンは、通常の受信をしながら特定周波数の信号の有無を受信(監視)するためのスキャンです。

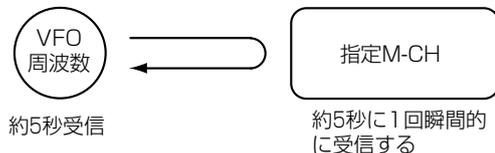
プライオリティスキャンには、下記の種類があります。

- 受信する周波数/M-CHは、約5秒ごとに1回(0.5秒以内)受信し、信号を受信すると他のスキャンと同様に一時停止します。受信する周波数/M-CHを、プライオリティCH(チャンネル)といいます。
- ※ 一時停止の時間および再スタートの条件は、他のスキャンと同じです。(セットモードの設定条件)
- ※ プライオリティスキャンの解除について、「◇VFO周波数を受信中にM-CHを受信する」をご覧ください。(P38)

種 類	動 作
VFO周波数とM-CH	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のM-CHの信号を受信(監視)します。
VFO周波数とメモリスキャン	VFO周波数を約5秒間受信しながら、スキャン中のM-CHを順次受信(監視)します。
VFO周波数とCALL-CH	VFO周波数を約5秒間受信しながら、CALL-CHを受信(監視)します。
VFO周波数とメモリーブランク	VFO周波数を約5秒間受信しながら、指定のメモリーブランクに編集したM-CHの周波数を受信(監視)します。

◇ VFO周波数を受信中にM-CHを受信する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
 - [V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ③ [V/M/C(MW)]を短く押し、メモリーモードにします。
 - [V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ④ [▼]/[▲]を押して、受信するM-CHを指定します。
- ⑤ [FUNC]を押してから、[H/M/L ()]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ⑥ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを受信する」プライオリティスキャンを解除します。

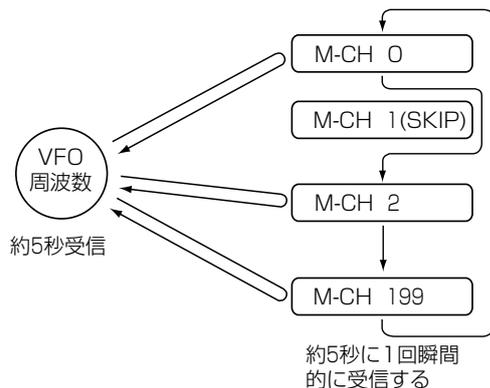


8 プライオリティスキャンの操作

■ プライオリティスキャンについて (つづき)

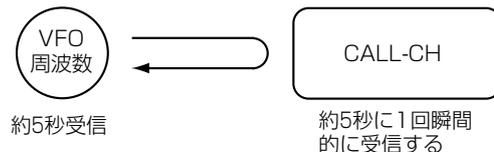
◇ VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
 - [V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ③ [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
- ④ [FUNC]を押してから、[▼]か[▲]を押して、メモリスキャンをスタートさせます。
- ⑤ [FUNC]を押してから、[H/M/L ()]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ⑥ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にM-CHを順次受信する」プライオリティスキャンを解除します。



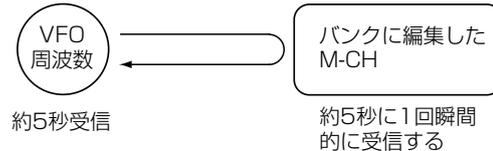
◇ VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
 - [V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ③ [V/M/C(MW)]を短く押して、CALL-CHモードにします。
- ④ [FUNC]を押してから、[H/M/L ()]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ⑤ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にCALL-CHを受信する」プライオリティスキャンを解除します。



◇ VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したを受信する

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOモードにします。
 - [V/M/C(MW)]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ② [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ③ [V/M/C(MW)]を短く押して、メモリーモードにします。
- ④ [FUNC]を押したあと、[MONI]を短く押して、メモリーバンク選択状態にします。(メモリー表示部が点滅します。)
- ⑤ [VOL]を回して、メモリーバンク(A~J)を選択します。
- ⑥ [MONI]を短く押して、バンクを設定します。
(バンク表示部が点滅から点灯に切り替わります。)
- ⑦ [▼]/[▲]を押して、バンクに編集したM-CHを選択します。
- ⑧ [FUNC]を押してから、[H/M/L()]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CHを受信する」プライオリティスキャンを開始します。
- ⑨ [V/M/C(MW)]を短く押すと、「VFO周波数を受信中にメモリーバンクに編集したM-CHを受信する」プライオリティスキャンを解除します。



◇ プライオリティスキャン解除時のご注意

- [V/M/C(MW)]を押して、プライオリティスキャンを解除すると、メモリーモードになります。
- VFOモードを受信中にプライオリティスキャンを解除し、VFOモードにする場合は、[FUNC]を短く押してから、[H/M/L()]を短く押してください。
※ただし、CALL-CHを受信している場合は、プライオリティスキャンが再スタートします。

9

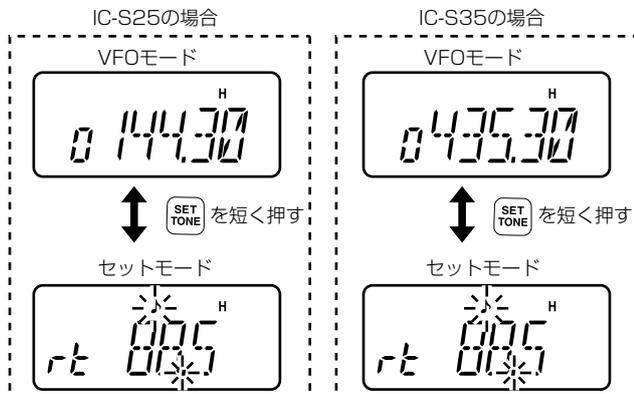
セットモード

■セットモードの設定方法

セットモードは、初期設定されている運用条件を、運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更するモードです。

◇セットモードの操作

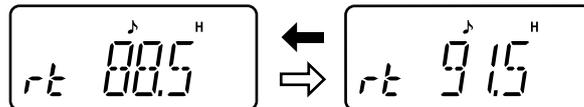
- ① [SET(TONE)]を短く押します。
セットモードを表示します。



- ② [▼]または[▲]を押すごとに、設定項目が切り替わります。



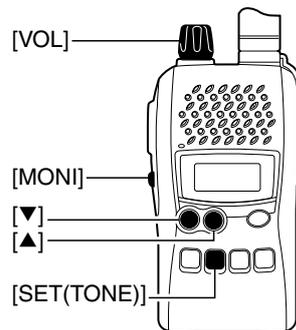
- ③ [VOL]を回して、設定内容を選択します。
続けてセットモードを設定するときは、②と③を繰り返し操作してください。



[VOL]を回す

- ④ [SET(TONE)]または[MONI]を短く押すと、セットモードを解除します。

●セットモードで使用する操作キー



9 セットモード

■セットモードの設定項目について

◇レピータ用トーン周波数の設定

レピータ運用で使用するトーン周波数を設定します。

- **88.5** : 67.0~254.1 Hz(50波)の中から選択します。
(初期設定値 : 88.5Hz)



67.0	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
69.3	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	(単位 : Hz)
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	
88.5	118.8	159.8	186.2	225.7	

◇トーンスケルチ用トーン周波数の設定

トーンスケルチ、ポケットビープで使用するトーン周波数を設定します。

- **88.5** : 67.0~254.1 Hz(50波)の中から選択します。
(初期設定値 : 88.5Hz)

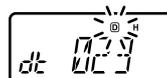


67.0	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
69.3	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	(単位 : Hz)
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	
88.5	118.8	159.8	186.2	225.7	

◇DTCSコードの設定

コードスケルチ、DTCSビープで使用するコードを設定します。

- **023** : 023~754(104波)の中から選択します。
(初期設定値 : 023)



023	051	114	143	174	245	266	332	411	452	506	612	703
025	053	115	145	205	246	271	343	412	454	516	624	712
026	054	116	152	212	251	274	346	413	455	523	627	723
031	065	122	155	223	252	306	351	423	462	526	631	731
032	071	125	156	225	255	311	356	431	464	532	632	732
036	072	131	162	226	261	315	364	432	465	546	654	734
043	073	132	165	243	263	325	365	445	466	565	662	743
047	074	134	172	244	265	331	371	446	503	606	664	754

◇ DTCS位相反転機能の設定

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送出手または検出の位相を設定します。

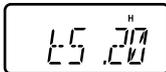
- dtP.nn：送信/受信とも反転しません。
(初期設定値)
- dtP.nR：送信側を反転しないで、受信側を反転します。
- dtP.Rn：送信側を反転し、受信側は反転しません。
- dtP.RR：送信/受信とも反転します。



◇ チューニングステップの設定

周波数の設定、またはスキャンするときの周波数可変幅を設定します。

- 5、10、12.5、15、20、25、30、50kHzの中から選択します。
(初期設定値：20kHz)



◇ デュプレックスの設定

送信と受信の周波数をずらして交信するときに設定します。

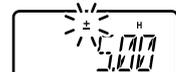
- dUP.OF：デュプレックス運用しません
(通常の運用モードです)。
(初期設定値)
- dUP.-：送信周波数を受信周波数よりも低くします。
- dUP.+：送信周波数を受信周波数よりも高くします。



◇ オフセット周波数の設定

送信と受信の周波数のずれ幅をオフセット周波数といいます。レピータ(IC-S35のみ)/デュプレックス運用するときに設定します。

- オフセット周波数は0～20MHzのあいだで設定できます。
- IC-S25の初期設定値：0.00MHz
- IC-S35の初期設定値：5.00MHz



9 セットモード

■ セットモードの設定項目について (つづき)

◇ デュプレックス反転の設定

デュプレックス運用のとき、送信周波数と受信周波数を入れ替えるときに設定します。

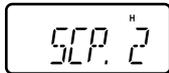
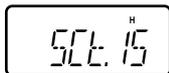
- **REV.OF** : 周波数を入れ替えません。
(初期設定値)
- **REV.On** : 周波数を入れ替えます。



◇ スキャンストップタイマーの設定

スキャン動作中に信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を設定します。

- スキャンストップタイマーの条件を下
表の中から選択します。
(初期設定値 : Sct.15)

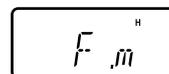
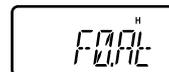


表示	動作内容
Sct.5	一時停止してから5秒後に再スタートします。
Sct.10	一時停止してから10秒後に再スタートします。
Sct.15	一時停止してから15秒後に再スタートします。
SCP.2	信号を受信しているあいだは一時停止し、信号が無くなると約2秒後に再スタートします。

◇ ファンクションキータイマーの設定

[FUNC]が押されて、次のキーが押されたあとの[FUNC]の有効時間を設定します。

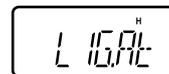
- **FO.At** : 次のキーが押されたあと、“**F**”がすぐに消えます。
(初期設定値)
- **F1/2/3.At** : 次のキーが押されたあと、1/2/3秒後に“**F**”が消えます。
- **F.m** : 次のキーが押されたあと、再度[FUNC]を押すまで“**F**”は消えません。



◇ LCDバックライトの設定

LCDのバックライト機能を設定します。

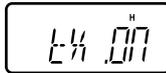
- **LIG.At** : [PTT]以外のキーが押されたとき、約5秒間バックライトが点灯します。(初期設定値)
- **LIG.On** : 常時バックライトを点灯します。
- **LIG.OF** : バックライトを点灯しません。



◇ 送信禁止の設定

本機を送信できないようにするときに設定します。この機能はM-CH、CALL-CHでも、個別に設定できます。

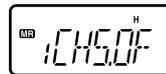
- **tX.On** : 送信できます。(初期設定値)
- **tX.OF** : 送信できません。



◇ スキップチャンネルの設定

メモリスキャン時に、スキャンの対象からはずしたいチャンネルを飛び越す(スキップ)ように指定する機能です。

- **CHS.OF** : M-CHのスキップ機能を解除します。
(初期設定値)



- **CHS.On** : “SKIP”表示が点灯します。

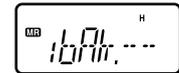
※この項目は、メモリーモードのときにセットモードにしなれば表示されません。

※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。

◇ メモリーバンクの設定

M-CHを編集するメモリーバンクを設定します。

- **bAk. - - - -** : A~Jの中から選択します。
(初期設定値：メモリーバンク選択状態)



※この項目は、メモリーモードのときにセットモードにしなれば表示されません。

※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。(P50)

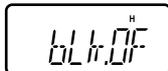
9 セットモード

■ セットモードの設定項目について (つづき)

◇ メモリーバンクのリンク設定

メモリーバンクのリンク機能を設定します。
リンク機能によりバンクスキャン選択時、編集しているすべてのメモリーバンクをスキャンします。

- **bLk.OF** :メモリーバンクをリンクしません。(初期設定値)
- **bLk.On** :メモリーバンクをリンクします。



※ この項目は、メモリーモードのときにセットモードにしなれば表示されません。

※メモリーネーム、チャンネル番号表示選択時は項目表示されません。

●各バンクのリンクを設定する

① **bLk.ON(リンクする)**に設定したときは、[▼]または[▲]を短く押して、リンクするバンクを選択します。

② [VOL]を回して、リンクの“ON/OFF”を選択します。

- **bLA.On/OFF** :バンク“**A**”のリンクを選択します。
- **bLb.On/OFF** :バンク“**B**”のリンクを選択します。
- **bLC.On/OFF** :バンク“**C**”のリンクを選択します。
- **bLd.On/OFF** :バンク“**D**”のリンクを選択します。
- **bLE.On/OFF** :バンク“**E**”のリンクを選択します。
- **bLF.On/OFF** :バンク“**F**”のリンクを選択します。
- **bLG.On/OFF** :バンク“**G**”のリンクを選択します。

(右上につづく)

- **bLH.On/OFF** :バンク“**H**”のリンクを選択します。
- **bLI.On/OFF** :バンク“**I**”のリンクを選択します。
- **bLJ.On/OFF** :バンク“**J**”のリンクを選択します。

■ イニシャルセットモードの設定のしかた

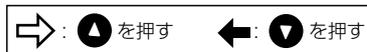
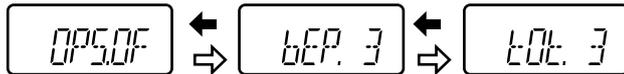
イニシャルセットモードは、普段あまり変更することのない機能をまとめたモードです。

◇ イニシャルセットモードの操作

- ① [PWR]を押して、いったん電源を切ります。
- ② [▼]と[▲]を押しながら[PWR]を押して、電源を入れます。
(イニシャルセットモードを表示します。)



- ③ [▼]または[▲]を短く押すごとに、設定項目が切り替わります。(次ページ参照)



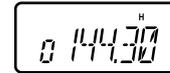
- ④ [VOL]を回して、設定内容を選択します。



[VOL]を回す

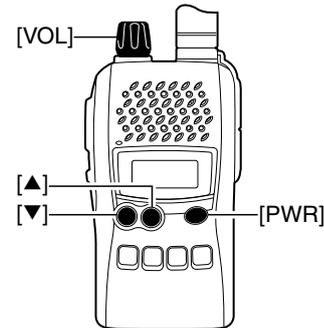
- 続けてイニシャルセットモードの項目を設定するときは、③と④を繰り返し操作してください。

- ⑤ [PWR]を押すと、イニシャルセットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

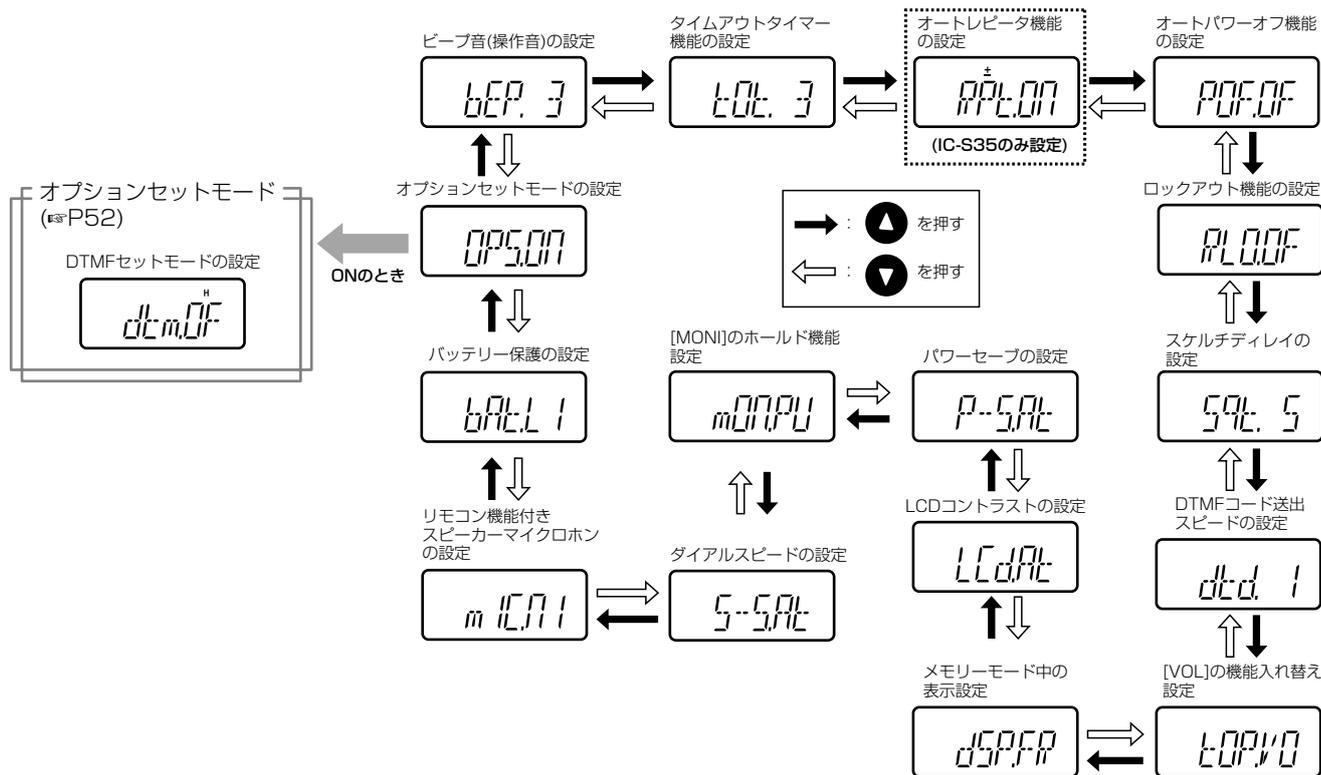
● イニシャルセットモードの操作キー



9 セットモード

■ イニシャルセットモードの設定のしかた (つづき)

◇ イニシャルセットモードの設定項目一覧



■ イニシャルセットモードの設定項目について

◇ ビープ音(操作音)の設定

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビープ音を設定します。

- bEP. 1/2/3 : ビープ音を鳴らします。(初期設定値: 3)
- bEP.OF : 鳴りません。

bEP. 3

◇ タイムアウトタイマー機能の設定

連続して送信する時間の制限を設定します。

- tOt.OF : 制限しません。
- tOt. 1~30 : 1~30分に制限します。(初期設定値: 3分)

tOt. 3

※ 禁止時間の10秒前にビープ音を鳴らして知らせます。

◇ オートレピータ機能の設定(IC-S35のみ設定)

レピータ運用をするための、シフト方向(-:マイナス)とトーンの“ON/OFF”を自動で設定するためのオートレピータ機能を設定します。

- RPt.On : オートレピータ機能を有効にします。(初期設定値)
- RPt.OF : オートレピータ機能を無効にします。

RPT.ON

※ オートレピータ機能はアマチュアバンドの430MHz帯で、周波数範囲“439.000~440.000MHz”に対応しています。

【重要！】 タイムアウトタイマー機能をON(設定時間: 1~3分)に設定することをおすすめします。

付属のリチウムイオンバッテリーパック(仕様によっては付属していません)を装着時に、タイムアウトタイマー機能をOFFにして送信し続けると、バッテリーパックからの電源供給が遮断されることがあります。

これは、送信による発熱により、バッテリーパック内の保護回路が動作し、電源供給を遮断するためです。(本体破損防止のため)

※バッテリーパックの温度が下がると、電源供給は再開します。

※不慮にPTTがONになり、送信し続ける事故を防ぐため、タイムアウトタイマー機能をお使いになることをおすすめします。

※タイムアウトタイマー機能をOFFにして連続送信すると、送信による発熱のため本体が高温になります。高温によるやけどにご注意ください。

※本体が高温になると、本体破損防止のため保護回路が動作し、ハイパワー時の送信出力がIC-S25の場合は約3Wに、IC-S35の場合は約2.5Wになります。

9 セットモード

■ イニシャルセットモードの設定項目について(つづき)

◇ オートパワーオフ機能の設定

自動的に電源を“OFF”にするオートパワーオフ機能を設定します。待ち受け状態(何も操作しない状態)が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。

- **POF.OF** : オートパワーオフ機能を無効にします。(初期設定値)
- **POF.30** : 30分後に電源を切ります。
- **POF.1H** : 1時間後に電源を切ります。
- **POF.2H** : 2時間後に電源を切ります。



◇ ロックアウト機能の設定

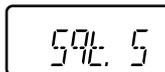
受信信号によって、本機が送信できるかできないか(ロックアウト機能)を設定します。

- **RLO.RP** : レピータロックアウトがONになります。受信信号がないとき、またはレピータトーン周波数(☞P41)が一致しているときに送信できます。
- **RLO.OP** : レピータロックアウトがOFFになります。受信信号がないとき、またはレピータトーン周波数(☞P41)が一致しているときに送信できます。
- **RLO.bU** : ビジーロックアウトがONになります。信号を受信中は送信できません。
- **RLO.OF** : ロックアウトしません。受信信号の有無、レピータトーン周波数の一致/不一致に関わらず、送信できます。(初期設定値)

◇ スケルチディレイの設定

受信時のスケルチディレイ(遅延)の制御時間を設定します。

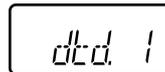
- **Sqt. S** : スケルチディレイ(遅延)時間を「Short」にします。(初期設定値)
- **Sqt. L** : スケルチディレイ(遅延)時間を「Long」にします。



◇ DTMFコード送出スピードの設定

DTMFコードの送出するスピードを設定します。

- **dtd. 1** : 約100m秒間隔で送信します。(初期設定値)
- **dtd. 2** : 約200m秒間隔で送信します。
- **dtd. 3** : 約300m秒間隔で送信します。
- **dtd. 5** : 約500m秒間隔で送信します。



◇ [VOL]の機能入れ替え設定

[VOL]の機能を設定します。

- **tOP.VO** : AFボリュームとして機能します。(初期設定値)
このとき[▼]/[▲]は周波数設定ボタンとして機能します。
- **tOP.dl** : 周波数設定ダイヤルとして機能します。
このとき[▼]/[▲]はAFボリュームとして機能します。



◇ LCDコントラストの設定

LCDのコントラストを設定します。

- **LCd.At** : コントラストを自動で設定します。(初期設定値)
- **LCd.HI** : コントラストを明るく設定します。
- **LCd.LO** : コントラストを暗く設定します。



◇ メモリーモード中の表示設定

メモリーモード選択時の表示内容を設定します。

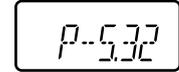
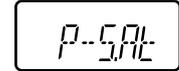
- **dSP.FR** : メモリーの周波数を表示します。(初期設定値)
- **dSP.CH** : メモリーのチャンネル番号を表示します。イニシャル、オプションセットモードで表示されないセット項目があります(ただし、メモリに書き込まれている場合は表示されます)。
- **dSP.nm** : メモリーネームを表示します。
なお、メモリーネームを登録していないチャンネルを選択したときは、メモリーしている周波数を表示します。



◇ パワーセーブの設定

電池の消耗を防ぐためのパワーセーブ機能を設定します。

- **P-S.At** : 比率を自動で設定します。信号を受信しない状態が5秒で1:2に、さらに55秒で1:16になります。(初期設定値)
- **P-S.32** : 比率を1:32に設定します。
- **P-S.16** : 比率を1:16に設定します。
- **P-S. 8** : 比率を1:8に設定します。
- **P-S. 2** : 比率を1:2に設定します。
- **P-S.OF** : パワーセーブ機能をOFFにします。



[ご注意] : ページャー/コードスケルチ設定時(UT-108装着時)、パワーセーブの比率は1:1で固定です。

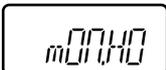
9 セットモード

■ イニシャルセットモードの設定項目について(つづき)

◇ [MONI]のホールド機能設定

[MONI]の機能(スケルチを開いてモニターをやる)が、キーを押しているあいだ動作させるか、1回押すごとに“ON/OFF”させるかを設定します。

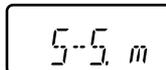
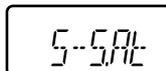
- mOn.PU : [MONI]を押しているあいだだけ、スケルチが開きます。(初期設定値)
- mOn.HO : 1回押すとモニターを“ON”にし、もう一度押すと“OFF”にします。



◇ ダイアルスピードの設定

[VOL]の機能を入れ替えて、[VOL]をはやく回したとき、周波数がアップ、ダウンする速度を自動的に加速させるかどうかを設定します。

- S-S.At : スピードアップします。(初期設定値)
- S-S. m : 一定速度のままとなります。

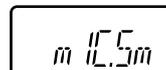
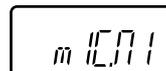


(ご参考) [VOL]の機能を入れ替えずに[▼]/[▲]を押し続けたとき、ダイアルスピードの設定に関わらず、周波数がアップ、ダウンする速度を自動的に加速します。

◇ リモコン機能付きスピーカーマイクロホンの設定

別売品のHM-75A(リモコン機能付きスピーカーマイクロホン)使用時に、必要最小限のリモコン機能を設定します。(P67)

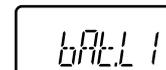
- mIC.n1 : ノーマル1(初期設定値)
- mIC.n2 : ノーマル2
- mIC.Sm : シンプルモード



◇ バッテリー保護の設定

バッテリーの電圧が下がり、一定電圧以下になると、自動的に無線機の電源をOFFにする機能を設定します。

- bAt.OF : 機能しません。
- bAt.LI : バッテリー保護がONになります。別売品のリチウムイオンバッテリーパック(BP-227)をご使用になるときは、バッテリー保護を“bAt.LI”にします。(初期設定値)



◇ オプションセットモードの設定

別売品のオプションユニット(UT-108)をつけたときに、オプションセットモードの設定や、DTMF/コードスケルチの設定をできるようにするための設定です。

- **OPS.OF** : オプションセットモードの設定ができません。
(初期設定値)
- **OPS.ON** : オプションセットモードの設定やDTMF/コードスケルチの設定ができます。

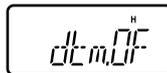


■ オプションセットモードの設定のしかた

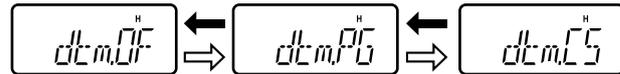
オプションセットモードはイニシャルセットモードで「オプションセットモードの設定」が“ON”のときだけ表示されます。

◇ オプションセットモードの操作

- ① **[SET(TONE)]**を長く(約1秒)押し、オプションセットモードを表示します。
※イニシャルセットモードになっている場合、**[PWR]**を押してください。



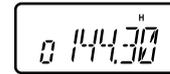
- ② **[VOL]**を回して、設定内容を選択します。



[VOL]を回して、設定内容を選択する。

ページャー/コードスケルチを表示、設定するには、別売品のUT-108が必要です。

- ③ **[SET(TONE)]**または**[MONI]**を押すと、オプションセットモードを解除します。



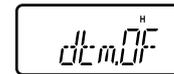
※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

■ オプションセットモードの設定項目について

◇ DTMFセットモードの設定

DTMFモードを設定します。

- **dtm.OF** : DTMFモード。
(初期設定値)
- **dtm.PG** : ページャーモード。
- **dtm.CS** : コードスケルチモード。



10 各種機能の使いかた

■DTMFメモリー機能の使いかた

最大24桁のDTMF信号を、16チャンネルのDTMFメモリーに記憶できます。

◇DTMFメモリーの書き込みかた

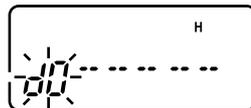
- ① イニシャルセットモードで「オプションセットモード(OPS)」項目が「OPS.On」になっていることを確認します。(※P52)



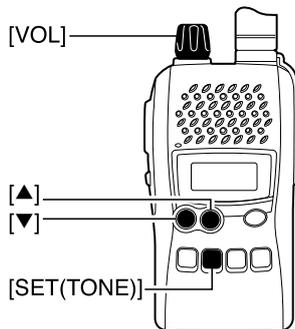
- ② [PWR]を短く押したあと、[SET(TONE)]を長く(約1秒)押し、「DTMFモードの設定(dtm)」を選択します。(※P52)
- ③ [VOL]を回して、DTMFモードを選択します。



- ④ [SET(TONE)]を長く(約1秒)押し、DTMFメモリーチャンネル状態にして、[VOL]を回し、DTMFメモリーチャンネルを選択します(DTMFメモリー表示が点滅します)。
※DTMFメモリーチャンネルは「d0～d9、dA～dF」が選択できます。

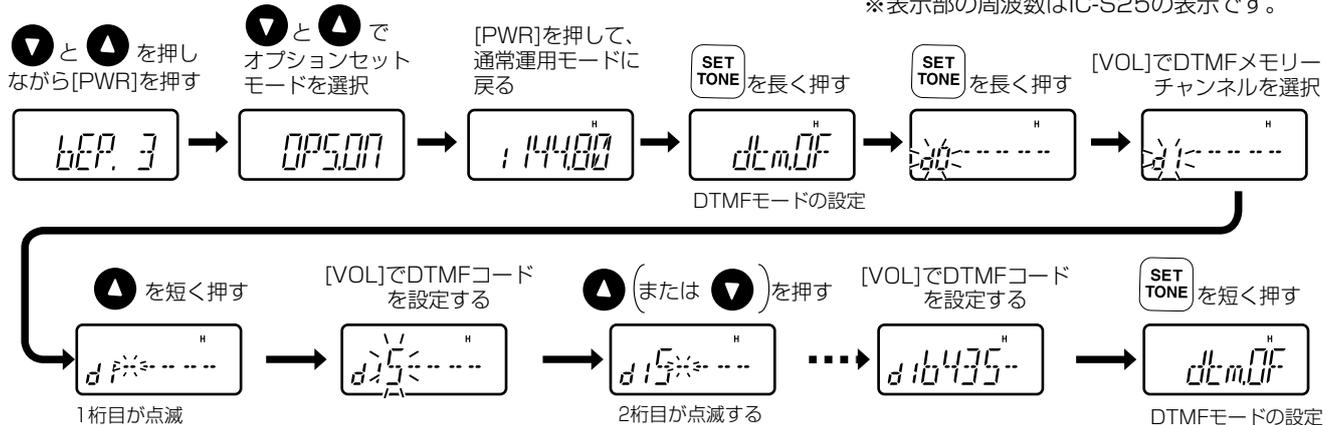


- ④ [▲]を短く押すと、1桁目が点滅してDTMFコードの入力状態になります。
- ⑤ [VOL]を回して、DTMFコードを設定します。
DTMFコードは、「0～9、A～F」が選択できます。
- ⑥ [▲]を短く押すと、点滅が2桁目に移動します。
設定桁の移動は、[▲]を短く押すと右に移動、[▼]を短く押すと、左に移動します。
- ⑦ 前記⑤と⑥を繰り返し操作することで、最大24桁まで設定できます。
5桁以上入力したときは、5桁ずつ順送りで表示します。
- ⑧ 設定したDTMFコードを書き込むときは、[SET(TONE)]を短く押すと、DTMFコードを書き込みます。書き込んだあと、「DTMFモードの設定(dtm)」状態に戻ります。
- ⑨ 続けて別のDTMFメモリーチャンネルに書き込むときは、前記③～⑧を繰り返し操作します。



《例》DTMFメモリー“d1”に“5D28AB435”のDTMFコードの設定

※表示部の周波数はIC-S25の表示です。



◇DTMFコードの訂正と消去のしかた

不要になったDTMFメモリーのコードを消去できます。

- ① [SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、「DTMFモードの設定(dtm)」を選択します。(※P52)。
- ② [SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DTMFメモリーチャンネル選択状態にします。(DTMFメモリー表示が点滅します。)
- ③ [VOL]を回して、訂正または消去するDTMFメモリーチャンネル(d0～d9、dA～dF)を選びます。

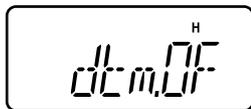
- ④ [▼]/[▲]を短く押して、訂正する桁を点滅させます。
- ⑤ [VOL]を回して、正しいDTMFコードを設定します。
点滅している桁で“- -”を選択すると、“- -”表示以降の桁がすべて“- -”になり消去されます。
※ 1桁目に“- -”を選択すると、選択したメモリーのDTMFコードはすべて消去されます。
- ⑥ [SET(TONE)]を短く押すと、訂正、削除したDTMFコードを書き込んでから、「DTMFモードの設定(dtm)」状態に戻ります。

10 各種機能の使いかた

■ DTMFメモリー機能の使いかた (つづき)

◇ DTMFコードの送的操作

- ① [SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、**「DTMFモードの設定(dtm)」**を選択します。(DTMFメモリー表示が点滅します。)(※P52)



- ② [SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、DTMFメモリーチャンネル選択状態にします。



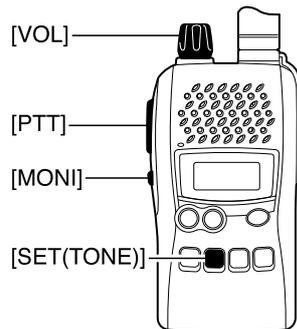
- ③ [VOL]を回して、DTMFメモリーチャンネルを選択します。DTMFメモリーチャンネルは「d0～d9、dA～dF」が選択できます。

- ④ [PTT]を押しながら、[MONI]を押します。



オプションセットモードを解除して、DTMFメモリーの内容が送信されます。

DTMFメモリーのコードが順次送出されると同時に、“ピボバ”音が鳴ります。



◇DTMFコード送出スピードの設定

初期設定でDTMFメモリーの送出スピードは、約100ミリ秒間隔に設定していますが、イニシャルセットモードで変更できます。

- ① イニシャルセットモードで、「DTMFコード送出スピードの設定(dtd)」項目を選択します。(P49)



- ② [VOL]を回して、DTMFコードの送出スピードを選択します。
 - **dtd. 1**：約100msec間隔で送出します。(初期設定値)
 - **dtd. 2**：約200msec間隔で送出します。
 - **dtd. 3**：約300msec間隔で送出します。
 - **dtd. 5**：約500msec間隔で送出します。
- ③ [PWR]を押すと、イニシャルセットモードを解除します。

10 各種機能の使いかた

■ トーン機能/DTCS機能/ポケットビープ機能の使いかた

◇ トーン機能とは

送信周波数にCTCSSトーン周波数またはDTCSコードを重畳して送ります。

受信時には重畳されたCTCSSトーン周波数またはDTCSコードが一致したときのみ、受信回路を動作させ、特定局の個別呼び出しをする便利な機能です。

◇ トーンスケルチ機能とは

特定の相手局と交信するときに便利な機能です。

自局が設定したCTCSSトーン周波数またはDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。

◇ ポケットビープ機能とは

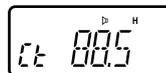
トーンスケルチ機能での待ち受け受信中、呼び出しを受けるとビープ音で知らせてくれる便利な機能です。

呼び出しを受けると、ビープ音“ピロピロピロ”が30秒間鳴り続けるとともに、表示部の“**h**”を点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことはありません。

◇ CTCSSトーン周波数を設定する

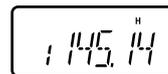
CTCSSトーン周波数は、セットモードで設定します。

- ① [▼]/[▲]で、運用周波数を設定します。(☞P12)
- ② セットモードで、「トーンスケルチ用トーン周波数の設定 (Ct)」項目を選択します。(☞P41)



- 88.5Hz
(初期設定値)

- ③ [VOL]を回して、トーン周波数を選択します。
- ④ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

◇ DTCSコードを設定する

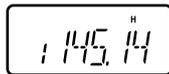
DTCSコードは、セットモードで設定します。

- ① [▼]/[▲]で、運用周波数を設定します。(☞P12)
- ② セットモードで、「DTCSコードの設定(dt)」項目を選択します。(☞P41)



● 023
(初期設定値)

- ③ [VOL]を回して、DTCSコードを選択します。
- ④ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

◇ 運用モードを設定して、交信する

- ① [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を短く押すごとに、「通常モード」⇒「♪：(レピータ用トーン)」⇒「㊦㊧：(CTCSSポケットビーブ)」⇒「㊦：(トーンスケルチ)」⇒「㊦ @：(DTCSポケットビーブ)」⇒「@：(DTCSコード)」⇒「通常モード」と切り替わります。
- ② [PTT]を押して、相手局を呼び出して、通常の運用と同様に交信します。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

10 各種機能の使いかた

■ トーン機能/DTCS機能/ポケットビープ機能の使いかた (つづき)

◇ ポケットビープで待ち受け受信しているとき

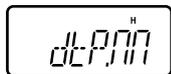
呼び出しを受けたら、30秒以内に[PTT]を押して通話するか、[FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を短く押すと、ポケットビープ機能は解除(“II”が消灯する)され、トーンスケルチ機能またはコードスケルチ機能の動作に変わります。

また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが“II”は点滅状態を続け、呼び出されたことを知らせます。

◇ DTCS位相反転機能について

送信側、受信側にそれぞれの組み合わせで、DTCSコードの送出または検出の位相をセットモードで設定できます。

- ① セットモードで、「DTCS位相反転機能(dtP)」項目を選択します。(☞P42)



- ② [VOL]を回して、下記から選択します。
 - dtP.nn : 送信/受信とも反転しません。(初期設定値)
 - dtP.nR : 送信側を反転しないで、受信側を反転します。
 - dtP.Rn : 送信側を反転し、受信側は反転しません。
 - dtP.RR : 送信/受信とも反転します。
- ③ [SET(TONE)]を短く押すと、セットモードを解除します。

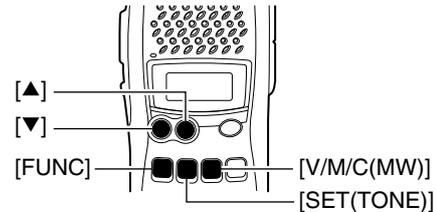
■ CTCSS トーン/DTCS コードスキャンのしかた

トーンスケルチ機能(☞P57)を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコード(☞P41)を使用しているかを検知するスキャンです。

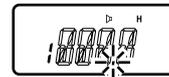
- VFO/メモリー/コールチャンネルモードに関係なく動作します。
- スキャン中に[▼]/[▲]を押すと、押した方向にアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。

◇ スタート操作

- ① [V/M/C(MW)]を短く押して、運用モードを設定します。
14ページの「**運用モード[VFO/メモリー(M-CH)/コールチャンネル(CALL-CH)]の切り替えかた**」を参照してください。
- ② [FUNC]を押してから、[SET(TONE)]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
トーン周波数またはDTCSコードを表示して、スキャンを開始します。
 - スキャン中にスケルチが開いているときはゆっくり、スケルチが閉じているときは速くスキャンします。
 - 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと(VFOモード時のみ)、スキャンを再スタートします。
 - ポケットビープ状態から、トーンスキャンすると、ポケットビープを解除して、トーン周波数またはDTCSコードスキャンになります。



※トーンスケルチ設定時のトーンスキャンの表示



※DTCSエンコーダー設定時のコードスキャンの表示



- T SQL : トーンスケルチ用トーンを書き替える
- DTCS : DTCSコードを書き替える

【ご注意】

トーンスケルチモードでトーン周波数が一致するとトーンスケルチ用トーン周波数を書き替えます。したがって、レピータ運用またはトーンスケルチ運用時にご注意ください。ただし、M-CH、またはCALL-CHでトーンスキャンをしたときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。

◇ ストップ操作

[SET(TONE)]、[V/M/C(MW)]、[H/M/L(☞)]のいずれかを短く押すと、CTCSS トーン/DTCS コードスキャンがストップします。

■ ページャー/コードスケルチについて

【ご注意】

ページャー/コードスケルチの運用をするには、別売品のDTMF/コードスケルチユニット(UT-108)が必要です。

◇ ページャー機能とは

ある特定局との待ち受け、呼び出しをするときに便利な機能です。

あらかじめ交信相手と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局の呼び出し/待ち受け/グループ斉呼び出し/待ち受けなどができます。また、呼び出されたときはピーブ音(ピロピロピロ…)で知らせると共に、呼び出した側のコードが表示部に表示されるので、確実な待ち受けができます。

◇ コードスケルチ機能とは

ある特定局と交信するときに便利な機能です。

自局でセットしたコードと同じコードを受信したときのみ、スケルチが開き、通話が受信できますので、特定局との交信ができ、従来のトーンスケルチと同様の運用ができます。

また、トーンスケルチとの併用もできます。

◇ ページャーコードとグループコードについて

ページャー機能は、ページャーコードとグループコードを設定する必要があります。それぞれコードは3ケタのDTMFコードで構成されています。コードは、下記のように前もって決めておく必要があります。

- 各トランシーバーでページャーコードを決めてください。
- グループコードは各グループで共通のコードに決めてください。
- 自局と相手局のページャーコード、グループコードは下表を参考に設定してください。

コードの種類	登録番号(C0~C6)	用途
自局のコード	C0	受信専用
相手局のコード	C1~C6	送信/受信用
グループコード	C1~C6の中の1個	送信/受信用
メモリースペース*	CP	書き込み用

*メモリースペースは、受信したコード書き込み用ですので、編集や削除ができません。

【別売品(UT-108)が必要です】

■ ページャー機能の使いかた

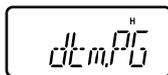
- ① イニシャルセットモードで、「オプションセットモード項目 (OPS)」が「OPS.ON」となっていることを確認します。

(☞P52)

確認が終われば、[PWR]を押して、イニシャルセットモードを終了してください。



- ② [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOにします。
押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ③ [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ④ [SET(TONE)]を長く押して、「DTMFモードの設定(dtm)」項目を選択します。(☞P52)

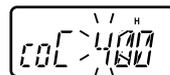


- ⑤ [VOL]を回して、「ページャー機能(dtm.PG)」を選択します。
- ⑥ [SET(TONE)]を長く(約1秒)押すと、登録番号(C0~C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)



- ⑦ [VOL]を回して、登録番号(C0~C6)を選択します。
- ⑧ [▲]を短く押すと、ページャーコード入力状態となり、1ケタ目が点滅します。

- ⑨ [VOL]を回して、コードを選択します。
※0~9の数字が選択できます。



- ⑩ [▲]を短く押すと、選択したコードが確定し、次のケタに点滅が移動します。
※ [▲]を押すとカーソルが右に移動し、[▼]を押すとカーソルが左に移動します。
- ⑪ 前項⑧~⑩を繰り返して、ページャーコードを入力します。
- ⑫ [SET(TONE)]を短く押すと、ページャーコード設定が記憶され、もう一度[SET(TONE)]を短く押すと、ページャーモードに入ります。
※ ページャーモードに入ると、周波数100MHzの桁が“P”に変わります。

◇ 特定局の呼び出しかた

- ① [PTT]を押すと、ページャーコードを送信します。このとき、“ピポパ”が音が鳴ります。
- ② 特定局から呼び出しの返答(アンサーバック)があると、表示部にその特定局のページャーコードか、グループコードが表示され、通信できるようになります。

《ご参考》

ページャー機能を使って通信が確立すると、「DTMFモードの設定(dtm)」を“OFF”(dtm.OF)にするか、「コードスケルチ機能(dtm)」を“ON”(dtm.CS)に設定されることをおすすめします。(☞P52)

10 各種機能の使いかた

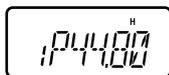
【別売品(UT-108)が必要です】

■ページャー機能の使いかた (つづき)

◇待ち受け受信のしかた

- ① ページャーモードに入ります。ページャーモードへの入りかたは、62ページの「ページャー機能の使いかた」を参照してください。

※ページャーモードに入ると、周波数の先頭の数字が“P”に変わります。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

- ② 特定局から呼び出しがあると、ピープ音(ピロピロピロ…)が鳴り、表示部に送信相手のページャーコード、またはグループコードが表示されます。

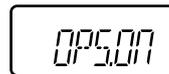
※ページャーコードを受信したとき、表示部には相手局のページャーコードが表示され、“CP”と“

※グループコードを受信したとき、表示部にはグループコードが表示され、該当するグループコードが登録されているチャンネルと(ここでは“C6”を例とします)“

- ③ [PTT]を押すと、特定局に呼び出しの返答(アンサーバック)が送信され、表示部が周波数表示に変わります。

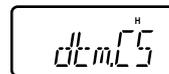
■コードスケルチ機能の使いかた

- ① イニシャルセットモードで、「オプションセットモード項目 (OPS)」が「OPS.On」となっていることを確認します。(※P52)

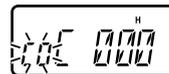


確認が終われば、[PWR]を押して、イニシャルセットモードを解除してください。

- ② [V/M/C(MW)]を短く押して、VFOにします。
※押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードを切り替えます。
- ③ [▼]/[▲]を押して、周波数を設定します。
- ④ [SET(TONE)]を長く(約1秒)押して、「DTMFモードの設定 (dtm)」項目を選択します。(※P52)
- ⑤ [VOL]を回して、「コードスケルチ機能(dtm.CS)」項目を選択します。(※P52)

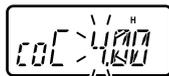


- ⑥ [SET(TONE)]を長く(約1秒)押すと、登録番号(C1～C6)の選択状態になります。(登録番号表示が点滅)

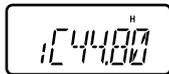


- ⑦ [VOL]を回して、登録番号(C1～C6)を選択します。

- ⑧ [▲]を短く押すと、スケルチコード入力状態となり、1ケタ目が点滅します。



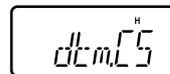
- ⑨ [VOL]を回して、コードを選択します。
0～9の数字が選択できます。
- ⑩ [▲]を短く押すと、選択したコードが確定し、次のケタに点滅が移動します。
※[▲]を押すとカーソルが右に移動し、[▼]を押すとカーソルが左に移動します。
- ⑪ 前項⑧～⑩を繰り返して、スケルチコードを入力します。
- ⑫ [SET(TONE)]を短く押すと、スケルチコード設定が記憶され、もう一度[SET(TONE)]を短く押すと、コードスケルチモードに入ります。
※コードスケルチモードに入ると、周波数100MHzの桁が“C”に変わります。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

◇ コードスケルチでの通話のしかた

- ① [PTT]を押して、通常の通信と同じように通話してください。
- ② コードスケルチを取り消すには、[SET(TONE)]を長く(約1秒)押して、「DTMFモードの設定(dtm)」項目を選択します。
(☞P52)



- ③ [VOL]を回して、「DTMF機能(dtm.OF)」を選択します。



- ④ [SET(TONE)]を短く押して、「DTMFモードの設定(dtm)」を解除します。(☞P52)

10 各種機能の使いかた

■ ビープ音(操作音)について

キーを操作したときに、その操作が有効か無効かを下記のようにビープ音で知らせる機能です。

● ビープ音の種類

- “ピッ” : 短く押すキー操作が正しいとき。
- “ピッ、ピー” : 長く(約1秒)押すキー操作が正しいとき。
- “プッ” : キー操作が無効のとき。
- “ピッ、ピピ” : メモリー書き込み操作が正しいとき。

※ イニシャルセットモードの「**ビープ(操作音)(bEP)**」の設定項目で、ビープ音の“ON(鳴る)/OFF(鳴らない)”が設定できます。(☞P48)

■ オートパワーオフ機能の使いかた

このタイマーは、電源の切り忘れを防止するための機能です。運用を終了し、何も操作しない状態が設定したタイマー時間まで続くと、“ピー”音が5回鳴って電源が自動的に切れます。

◇ イニシャルセットモードの「**オートパワーオフ機能(POF)**」の設定項目で時間を設定できます。(☞P49)

- 30(30分)/1H(1時間)/2H(2時間)の指定時間がすぎると、電源が自動的に切れます。
タイマーを一度セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※ 使用しないときは、“OFF”にしておきます。

- オートパワーオフ機能がONになると、表示部に“**AO**”が表示されます。

■ キーロック機能の使いかた

不用意にツマミやキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

- [FUNC]を押してから、[H/M/L()]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、ロック機能が“ON/OFF”します。ロック中は、表示部のメモリー表示部にロック表示“”が点灯します。

※ いずれの状態においても、[MONI](モニター機能、スケルチレベルの調整)、[PWR]、[FUNC]、[PTT]、[VOL]はロックしません。

■ タイムアウトタイマー機能の使いかた

送信時間を監視し、設定した時間になると強制的に送信を停止する機能です。

設定したタイマー時間になると、強制的に送信を停止します。

◇ イニシャルセットモードの「**タイムアウトタイマー機能(tOt)**」の設定項目で、タイムアウトタイマー時間を設定できます。(☞P48)

- 1～30分の中から設定できます。

※ 設定した時間の10秒前にビープ音を鳴らして知らせます。設定時間経過後、ビープ音を5回鳴らしてから送信を強制停止します。

■クローニングについて

クローンとは、1台のIC-S25/IC-S35に設定したメモリーの内容やセットモードの設定内容を、他のIC-S25/IC-S35に送出して、同じ設定内容にする機能です。

●クローンのしかた

① 下図のようにOPC-474(別売品)で接続します。

本体の電源を切ってから、OPC-474を[SP]ジャックに抜き差ししてください。

② 子機(クローン受信側)の電源を“ON”にします。

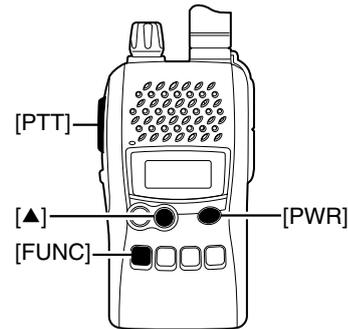
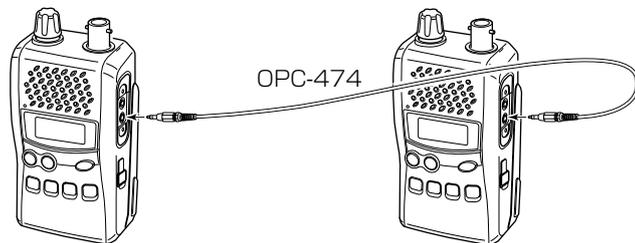
③ 親機(送出側)の操作

[▲]と[FUNC]を押しながら、[PWR]を押して電源を入れます。

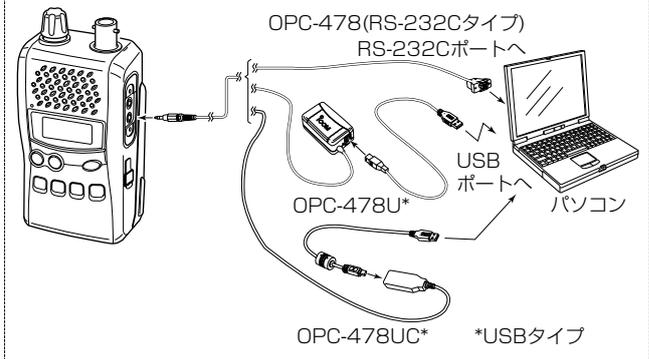
“CLONE”を表示します。

[PTT]を押すと、親機(クローン送信側)では“CL OU”を表示し、設定内容を送出します。子機(クローン受信側)では“CL IN”を表示します。

※ 子機が“CL OK”を表示して、クローニングが完了します。



◎クローニングには左記の本体間クローニングのほかに、パーソナルコンピュータ(PC)でクローニングする方法があります。PCクローニングソフトウェアとしてCS-V85(英語版)がありますので、販売店におたずねください。

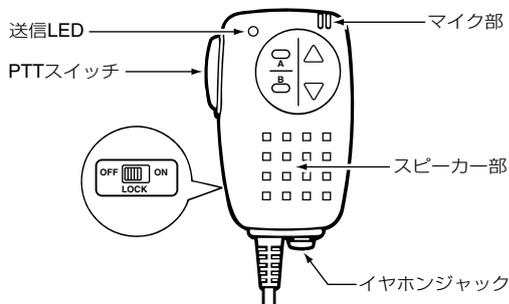


11 別売品について

■HM-75A(スピーカーマイクロホン)の使いかた

別売品として、リモコン機能付きスピーカーマイクロホンも用意しています。

イニシャルセットモードの「リモコン機能付きスピーカーマイクロホンの設定(mic)」項目(※P51)で、HM-75A(リモコン機能付きスピーカーマイクロホン)使用時に、必要最小限のリモコン機能を設定します。(右記参照)



※裏面にはLOCK(ロック)スイッチがあり、“ON”にすると各キーの機能を無効にします。

本体の電源を切ってから、HM-75Aを[SP]/[MIC]ジャックに抜き差ししてください。

●NORM-1：(初期設定)	
[A]	以前に使用したCALL-CHを呼び出します。
[B]	VFO/メモリーモードを切り替えます。
[▲]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをアップします。
[▼]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをダウンします。

●NORM-2：	
[A]	モニター機能を“ON/OFF”します。
[B]	VFO/メモリーモードを切り替えます。
[▲]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをアップします。
[▼]	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをダウンします。

●SIMPLE：	
[A]	モニター機能を“ON/OFF”します。
[B]	以前に使用したCALL-CHを呼び出します。
[▲]	M-CHの000CHを呼び出します。
[▼]	M-CHの001CHを呼び出します。

■シンプル機能について

グループでツーリングやスキーに行くときに、必要最小限のリモコン機能だけに限定し、トランシーバーの操作になれていない初心者でも、簡単に周波数移行ができるように工夫された便利な機能です。

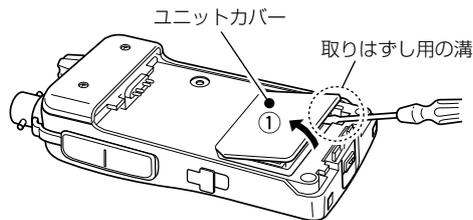
■UT-108(DTMF/コードスケルチユニット)の取り付けかた

別売品のUT-108(DTMF/コードスケルチユニット)を取り付けると、ページャー/コードスケルチを使った運用をお楽しみいただけます。

UT-108の取り付けは、下記の手順にしたがってください。

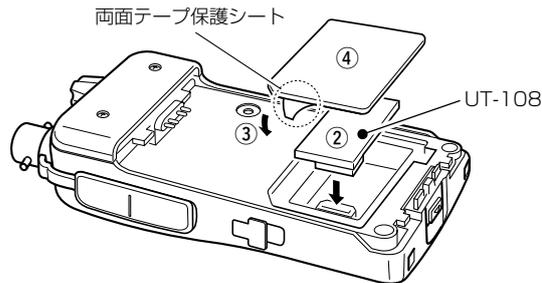
- ①電源が入っているときは、[PWR]を長く(約1秒)押して、電源を切ってください。
- ②バッテリーパックをはずします。
- ③ユニットカバー取りはずし用の溝に、ドライバーなどを差し込み、図のようにユニットカバーをはずします。

【△ご注意】 指でユニットカバーをはがそうとすると、ツメがはがれるなどのけがをする恐れがありますので、必ずドライバーなどをお使いください。



- ④UT-108を右図のように取り付けます。
- ⑤付属の新しいユニットカバーの裏面についている、両面テープ保護シートをはがし、ユニットカバーを元の位置に取り付けます。

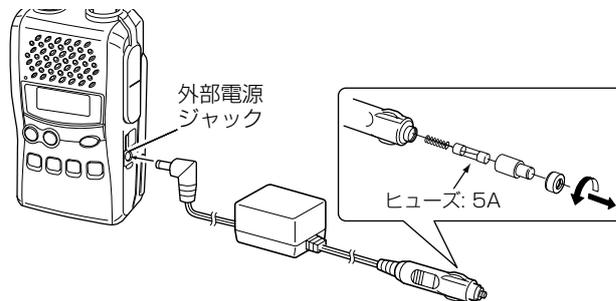
※はがれないように、しっかりと取り付けてください。



■CP-19(DC/DCシガレットライターケーブル)のヒューズ交換について

別売品のCP-19のヒューズを交換するとき、下図のように交換してください。

※ヒューズの容量は5Aです。



■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作して表示部の表示がおかしくなったときは、オールリセット、またはパースシャルリセット操作をしてください。

■ オールリセット操作をすると、次の機能データを工場出荷時の状態に戻します。

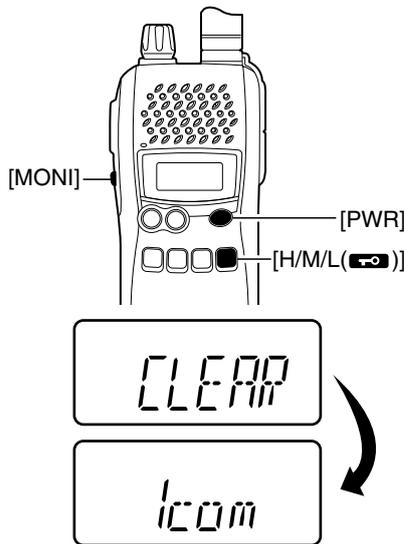
- VFO周波数、メモリーチャンネル(M-CH)、メモリーバンク、SETモード、音量設定、スキャンエッジ、スケルチレベルなど。

■ パーシャルリセット操作をすると、次の機能データを工場出荷時の状態に戻します。

- VFO周波数、SETモード、音量設定。

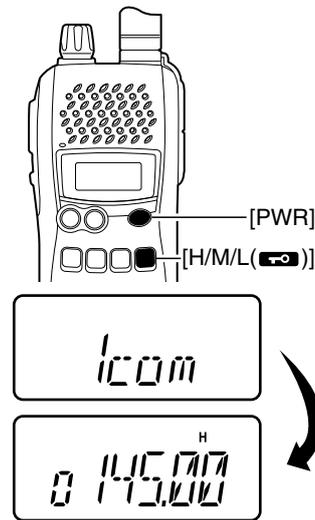
◇ オールリセットのしかた

- ① [PWR]を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。
- ② [MONI]と[H/M/L ()]を同時に押しながら、[PWR]を長く(約1秒)押しで電源を入れます。
 - “CLEAR”→“Icom”を表示したあと、初期表示になります。



◇ パーシャルリセットのしかた

- ① [PWR]を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。
- ② [H/M/L ()]を押しながら、[PWR]を長く(約1秒)押しで電源を入れます。
 - “CLEAR”は表示しません。“Icom”を表示したあと、初期表示になります。



※表示部の周波数はIC-S25の表示です。

■ 故障かな？と思ったら

下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社各営業所のカスタマーサービス担当まで、その状態を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参照
●電源が入らない	◎バッテリーパック(ケース)の接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎バッテリーパックまたは電池の消耗	●バッテリーパック(ケース)の端子を清掃する ●極性を確認して、電池を入れなおす ●バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	P7 P6 P6~10
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎外部スピーカー/イヤホンを接続している	●[VOL]を回して、音量を設定しなおす ●外部スピーカー/イヤホンプラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	P11 -
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート(外部アンテナ使用時)	●同軸ケーブルを点検し、正常にする	-
●[VOL]を回すと、周波数が変わる	◎入れ替え機能が動作している	●イニシャルセットモードで[VOL]機能の入れかえを解除する	P50
●[▼]/[▲]を押すと、音量が変わる			
●電波が出ないか、電波が弱い	◎LOWパワーの設定になっている ◎バッテリーパックまたは電池の消耗	●HIGHパワーにする ●バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	P13 P6~10
●送信しても応答がない	◎デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違っている	●デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする	P20、21
●周波数の設定ができない	◎キーロック機能が動作している ◎メモリーモードまたはコールチャンネルになっている	●キーロック機能を解除する ●[V/M/C(MW)]を押して、VFOモードにする	P65 P14
●周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	●リセットする ●バッテリーパックを装着しなおす	P69 P7
●プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎PROGRAM-CHの“*A”と“*B”に同じ周波数書き込まれている	●[V/M/C(MW)]を押して、VFOモードにする ●“*A”と“*B”に違う周波数を書き込む	P14 P34
●メモリスキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHIに2CHI以上書き込まれていない	●[V/M/C(MW)]を押して、メモリーモードにする ●2CHI以上をM-CHIに書き込む	P23 P35

12 ご参考

■ 故障かな?と思ったら(つづき)

状 態	原 因	処 置	参照
●急速充電器で充電中、充電器のLEDが橙色で点滅して充電できない	◎本体の電源が“ON”の状態になっている	●本体の電源を“OFF”にする “OFF”にできないときは、本体からバッテリーパックをはずし、バッテリーパックを単体で充電する	P8

■ 故障のときは

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら(※P70、71)」にしたがって、もう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 弊社製品のお問い合わせについて

お買い上げいただきました弊社製品の技術サポートなどで不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サポートセンター TEL06-6792-4949 (平日9:00~12:00、13:00~17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

● アフターサービスについてご不明な点があるときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所カスタマーサービス担当にお問い合わせください。

北海道営業所 003-0806 札幌市白石区菊水6条2-2-7 TEL 011-820-3888

東京営業所 103-0007 東京都中央区日本橋浜町3-42-3 TEL 03-5847-0722

カスタマーサービス TEL 03-5847-0724

広島営業所 733-0842 広島市西区井口3-1-1 TEL 082-501-4321

九州営業所 815-0032 福岡市南区塩原4-5-48 TEL 092-541-0211

仙台営業所 983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1 TEL 022-298-6211

名古屋営業所 468-0066 名古屋市天白区元八事3-249 TEL 052-832-2525

大阪営業所 547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19 TEL 06-6793-0331

四国営業所 760-0071 高松市藤塚町3-19-43 TEL 087-835-3723

■一般仕様

- 送信 / 受信周波数範囲 : 144.000~146.000MHz [IC-S25]
: 430.000~440.000MHz [IC-S35]
- 使用温度範囲 : -10℃~+60℃
- 周波数安定度 : ±2.5ppm以内(-10℃~+60℃)
(25℃を基準とする)
- 周波数分解能 : 5、10、12.5、15、20、25、
30、50kHz
- M-CH(メモリーチャンネル) : 107CH
(PROGRAM-CH 1A~3b : 6CH、
CALL-CH : 1CHを含む)
- 電源電圧 : DC 7.2V
(外部電源使用時 : DC11.0V)
- 接地方式 : マイナス接地
- 電波型式 : F2D、F3E
- アンテナインピーダンス : 50Ω 不平衡
- 外形寸法 : 56.0(W)×110.0(H)×34.4(D)
mm (BP-227装着時)
- 重量 : **本体のみ** 約165g [IC-S25]
約161g [IC-S35]
アンテナ、BP-227を含む
約310g [IC-S25]
約298g [IC-S35]

■送信部

- 変調方式 : FMリアクタンス変調
- 最大周波数偏移 : ±5.0kHz
- マイクロホンインピーダンス : 2.2kΩ
- スプリアス発射強度 : Hi/Mid -60dBc以下
(スプリアス領域/帯域外領域)
Low 50μW以下

■送信部(つづき)

- 送信出力 / 消費電流 : (BP-227装着時)

	IC-S25		IC-S35	
モード	送信出力	消費電流	送信出力	消費電流
High	7.0W	2.6A	5.0W	2.0A
Middle	4.0W	2.0A	2.0W	1.6A
Low	0.5W	1.0A	0.5W	1.2A

■受信部

- 受信方式 : ダブルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数 : 1st : 46.35MHz / 2nd : 450kHz
- 受信感度 : FM 12dB SINAD
-14dBμ以下
- スケルチ感度 : Threshold -16dBμ以下
- 選択度 : 55dB以上
- 相互変調 : 55dB以上
- スプリアス妨害比 : 60dB以上
- 不要輻射 : -57dBm以下
- 受信消費電流 : 最大出力時 250mA以下
受信待ち受け時 80mA以下
パワーセーブ時 30mA以下
- 低周波出力 : 0.3W以上 (8Ω負荷 10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス : 8Ω

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。
※本機は新スプリアス規定に対応しています。
※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

14 免許申請について

本機は、技術基準適合証明を受けた「技術証明送受信機」です。

免許申請書類のうち「無線局事項及び工事設計書」は、以下の要領で記入してください。

■ 無線局事項書の書きかた

希望する周波数帯	電波の型式								空中線電力	希望する周波数帯
	50M	3VA	4VA	3VF	4VF	3VF	4VF	4VF		
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	<input type="checkbox"/> 50M	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> W	
	<input checked="" type="checkbox"/> 144M	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF	<input checked="" type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 10W	<input type="checkbox"/> 10W	<input type="checkbox"/> 4630kHz
	<input checked="" type="checkbox"/> 430M	<input type="checkbox"/> 3VA	<input type="checkbox"/> 4VA	<input type="checkbox"/> 3VF	<input checked="" type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 3VF	<input type="checkbox"/> 4VF	<input type="checkbox"/> 10W	<input type="checkbox"/> 10W	<input type="checkbox"/> 4630kHz

IC-S25の場合

IC-S35の場合

■ 工事設計書の書きかた

装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	変調方式	※ 整理番号		
					名称個数	電圧	定格出力 (W)
第1送受信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更	技術番号を記入	144MHz帯 F3E,F2D ← IC-S25の場合	F3E,F2D: リアクタンス変調	144MHz帯 RD12MV51×1	144MHz帯 10.7V (DC11.0V) 7.0V (DC7.2V)	144MHz帯 7.0W
			430MHz帯 F3E,F2D ← IC-S35の場合		430MHz帯 2SK3476×1	430MHz帯 10.8V (DC11.0V) 7.0V (DC7.2V)	430MHz帯 5.0W
送信空中線の型式					周波数測定装置の有無 <input type="checkbox"/> 有 (誤差0.025%以内) <input checked="" type="checkbox"/> 無		
添付図面			<input checked="" type="checkbox"/> 送信機系統図	その他の工事設計	<input checked="" type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。		

本体に、技術証明マークと技術番号シールを貼っています。その番号を記入してください。必ず申請に使用するトランスミッター本体をご確認ください。

移動する局(空中線電力が50W以下の局)は記入の必要はありません。

「技術基準適合証明番号」を記入しているときは、記入する必要はありません。付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブスターなど)を付ける場合は、非適合証明送受信機となりますので、TSS株式会社の保証認定を受ける必要があります。したがって、網掛け部分に発射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信機系統図を添付して申請してください。
※工事申請書には、一括記載コードではなく、個別の電波型式を記入してください。

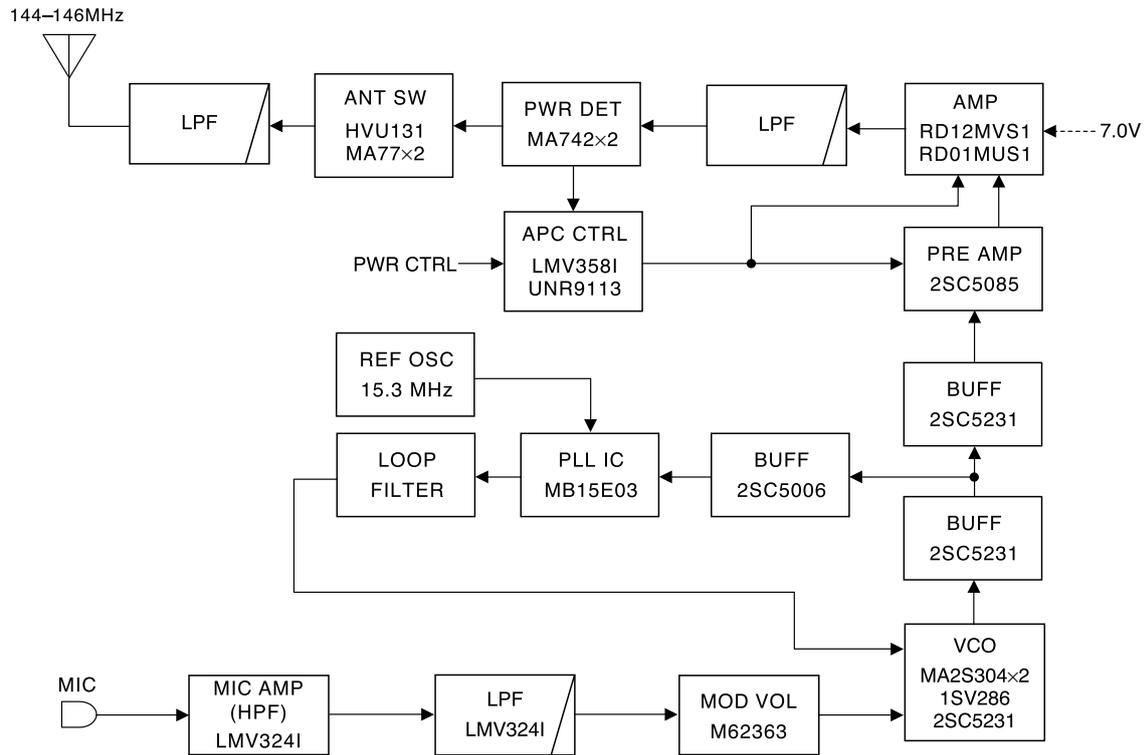
◇保証認定の申請について

必要事項を記入した「アマチュア無線局の無線設備の保証願書」を「無線局免許申請書」に添えて、TSS株式会社に申請してください。

〒112-0011 東京都文京区千石4-22-6 TSS株式会社 保証事業部

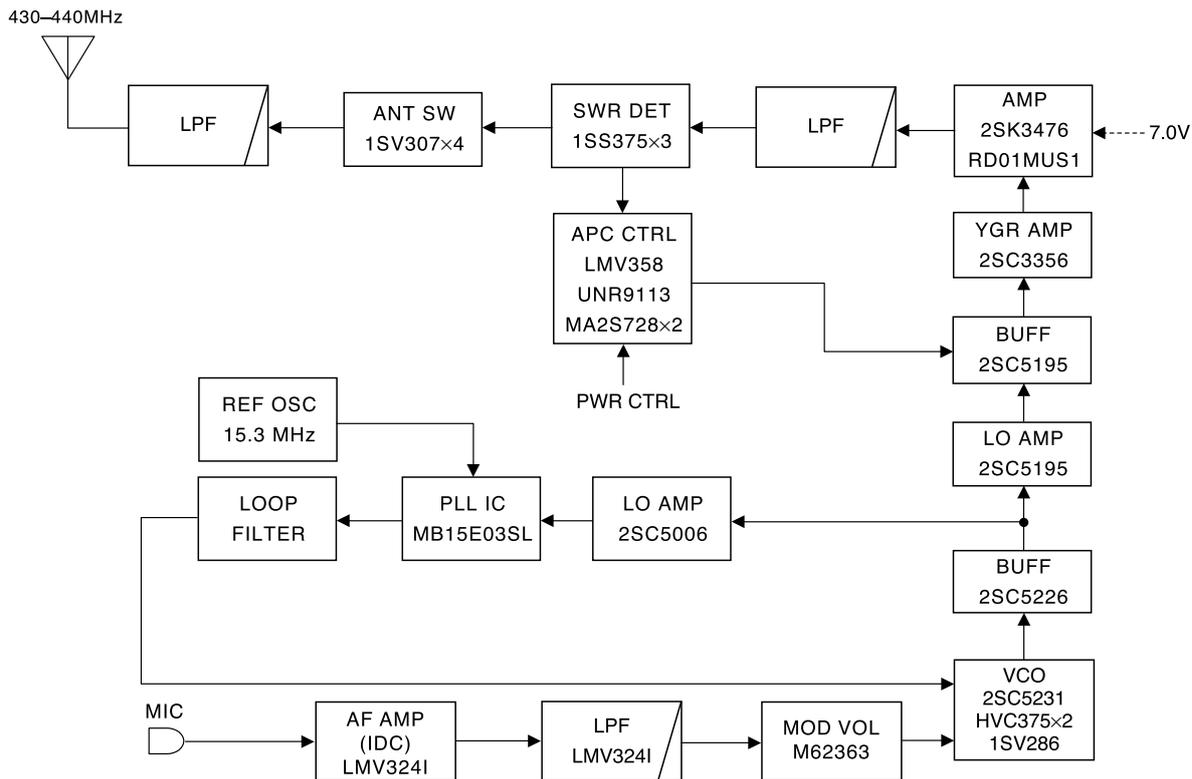
TEL : 03-5976-6411

■送信機系統図 (IC-S25)



14 免許申請について

■送信機系統図 (IC-S35)



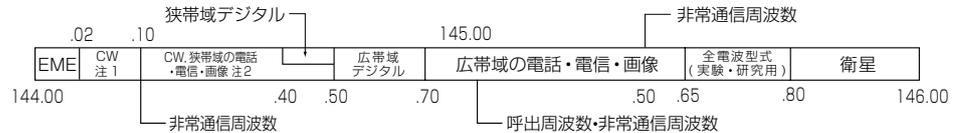
■ バンドの使用区別について

電波を発射するときは、下記の使用区別にしたがって運用してください。

なお、バンドプラン(使用区別)は改訂される場合があります。

最新の情報は、JARLニュースやJARLホームページなどでご確認ください。

144MHz帯 周波数：MHz



【注1】 144.02MHzから144.10MHzまでの周波数は、月面反射通信にも使用できる。

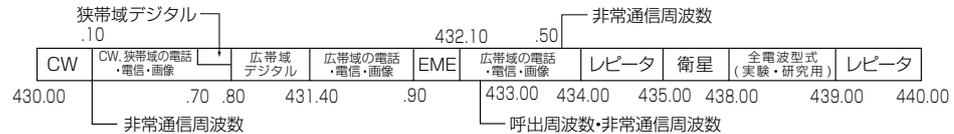
この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は6kHz以下のものに限る。

【注2】 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話、電信及び画像通信にも使用することができる。

【注3】 DV(デジタル音声)モードを運用するときは、145.65MHzから145.80MHzまでの全電波型式(実験・研究用)の周波数を使用すること。

狭帯域：占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域：6kHzを超える

430MHz帯 周波数：MHz



狭帯域：占有周波数帯幅6kHz以下、広帯域：6kHzを超える

【注1】 DV(デジタル音声)モードを運用するときは、438.00MHzから439.00MHzまでの全電波型式(実験・研究用)の周波数を使用すること。

15 別売品一覧

- AD-100 充電アダプタ
(BC-119N用)



- BC-119N 急速充電器



- UT-108 DTMF/コードス
ケルユニット



- MB-98 ベルトクリップ



- CP-19 DC/DCシガレットライター
ケーブル



- SP-13 イヤホン



- OPC-474 クローニング
ケーブル
(本体間用)



- OPC-478U クローニン
グケーブル



◇ バッテリーパック/ケース

- BP-226 バッテリーケース(単三型アルカリ電池5本用)
- BP-227 リチウムイオンバッテリーパック
(7.2V/1700mAh)

◇ 充電器

- BC-175L 簡易充電器(補修用)

◇ クローニングソフト/ケーブル

- CS-V85 クローニングソフト(英語版)
- OPC-478 クローニングケーブル
- OPC-478UC* クローニングケーブル

*お使いのパソコンのOSがWindows® 98/98SEの場合、
お使いいただけません

●HM-153L イヤホンマイク
(強化型)



●HM-131L 小型スピーカ
ーマイク



●HM-158L 小型スピーカ
ーマイク(ネジ止め
タイプ)



●HM-75A スピーカーマイク



●HS-85 ヘッドセット



●HS-94 ヘッドセット



●VS-1L PTT/VOXユニット



◇ アンテナ

- FA-B270C ホイップアンテナ(IC-S25/S35用)

◇ マイクロホン

- HM-166L イヤホンマイク

◇ キャリングケース

- LC-167 キャリングケース

索引

	C	
CALL-CHモード	14	
CP-19のヒューズ交換	68	
CTCSSトーン	57	
CTCSSトーンスキャン	60	
	D	
DTCS位相反転機能	42、59	
DTCSコード	41、58	
DTCSトーンスキャン	60	
DTMFコードの送出操作	55	
DTMFコードの訂正と消去	54	
DTMFコード送出スピード	49、56	
DTMFメモリーの書き込み	53	
	H	
HM-75A(スピーカーマイクロホン)の使いかた	67	
	L	
LCDコントラスト	50	
LCDバックライト	43	
	M	
[MONI]のホールド機能	51	
M-CHの呼び出し	23	
M-CHの初期設定値	22	
M-CHの書き込み	24	
M-CHの内容をVFOに転送	26	
M-CHの内容を他のチャンネルへ複写	26	
M-CHとバンクの使用例	27	
M-CHモード	14	
M-CHをバンクで編集する	27	
	U	
UT-108の取り付けかた	68	
	V	
[VOL]の機能入れ替え	50	
VFOスキャン	34	

VFOモード	14
VFO周波数	36~38

あ

アンテナ	5
イニシャルセットモード	46~48
運用モード	14、58
運用時間	9
オートインクリメント	26
オートパワーオフ機能	49、65
オートレピータ機能での交信	17
オートレピータ機能の解除	18
オートレピータ機能の設定	48
オールリセットのしかた	69
オプションセットモード	52
オフセット周波数	20、42
音量	11

か

各バンクのリンクを設定する	45
簡易充電	7
外部電源	10
キーロック機能	65
急速充電	8
クローニング	66
グループコード	61
工場出荷時の状態に戻す	69
コードスケルチ機能	61、63、64
コールチャンネル(CALL-CH)	31

さ

周波数を設定する	12
受信モニター機能	15
シンプル機能	67
スキップチャンネル	32、33、44
スキャンストップタイマー	43
スキャン	32
スキャンの再スタートの条件	33
スケルチディレイの設定	16、49

ICOM

操作ガイド

IC-S25

IC-S35



音量の調整

をまわす

スケルチレベルの調整

を押しながら か を押す

オールリセットのしかた

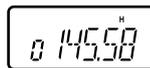
電源を切ったあと を同時に押す

パーシャルリセットのしかた

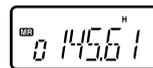
電源を切ったあと を同時に押す

VFO/M-CH/CALL-CHの切り替えかた

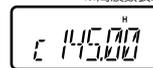
を押すごとにVFO/M-CH/CALL-CHが切り替わる
※周波数表示はIC-S25



VFOモード



M-CHモード



CALL-CHモード

周波数の設定

VFOモードにして か を押して設定する

送信のしかた

- を押して送信出力を設定する
LOWパワー "L" →MIDDLEパワー "M" →HIGHパワー "H"
- を押しながら話す

セットモードの操作

: セットモードの表示/解除

: 項目の切り替え

: 設定内容の選択

イニシャルセットモードの入りかた

電源を切ったあと を同時に押す

セットモードと同様の操作方法をおこなったあと[PWR]を押してください。

メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

メモリーモードにして   を押して呼び出す

M-CHへの書き込みかた

① VFOモードにして書き込みたい周波数を設定する

②  を押してから  を押す
(セレクトメモリーライト状態にする)

③   を押して書き込みたいM-CHを選択する
“C” を選択 : CALL-CHに書き込む
“-” を選択 : VFOに書き込む
“1A/1B~3A/3B” を選択 : PROGRAM-CHに書き込む

④  を押してから  を長く押して書き込み完了

VFOモードでスキャン

① VFOモードにして  を押し、 か  を押すとスキャンが開始する(▼: ダウンスキャン ▲: アップスキャン)

※スキャン中に  を押すと、フルスキャン、プログラムスキャンを切り替わる

②  か  を押すとスキャンを終了する

メモリーモードスキャン

①メモリーモードにして  を押し、 か  を押すとスキャンが開始する
(▼: ダウンスキャン ▲: アップスキャン)

②  か  を押すとスキャンを終了する

オートレピータ機能での交信

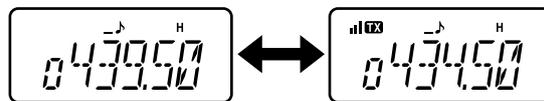
※IC-S35のみ

① VFOモードにして交信する周波数を設定する
(439.000MHz~440.000MHzに合わせるだけでトーン周波数とオフセット周波数が自動的に設定される)

② [PTT]を2秒間押す

※発射した電波がレピータに届いていれば、受信状態に戻ったときに、ID信号(モールス符号または音声)が聞こえます。なお、タイミングにより、ID信号が聞こえない場合もあります。

③ [PTT]を押すと送信、はなすと受信に戻る



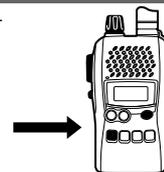
受信時の表示

送信時の表示(-5MHzシフトする)

キーロック機能の設定

 を押してから  を長く押す

※解除するときも同じ操作をする

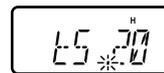


チューニングステップの設定

①セットモードで、「チューニングステップの設定」項目を選択

②  を回して選択

(5/10/12.5/15/20/25/30/50kHzの中から選択)



スケルチ	12、32
セットモードの設定項目一覧	40
セットモードの設定項目について	41
セットモードの設定方法	39
セットモードの操作	39
送信禁止の設定	44
送信周波数のチェック	19
送信時のオフバンド表示	21
送信出力	13

た

タイムアウトタイマー機能	48、65
ダイヤルスピード	51
チューニングステップ	15、42
デュプレックス	20、42
デュプレックス反転	43
電池の入れかた	6
特定局の呼び出し	62
トーンスケルチ機能	57
トーン周波数の設定	41
トーン機能	57

は

パージャルリセット	69
パイロットランプ表示	8
バッテリー保護	51
バッテリーケース	7
バッテリーパック	7
パワーセーブ	50
バンクのM-CH表記	27
ハンドストラップ	5
表示部	3
ビーブ音(操作音)	48、65
ファンクションキータイマー	43
フルスキャン	34
プライオリティスキャン	36
プログラムスキャン	34
ページャー機能	61、62
ベルトクリップ	5

保護回路	13、48
ポケットビーブ機能	57
ポケットビーブで待ち受け受信しているとき	59

ま

待ち受け受信	63
メモリークリア(消去)	30
メモリースキャン	35
メモリーネーム	29、30
メモリーバンクスキャン	35
メモリーバンクのリンク設定	45
メモリーバンクの設定	44
メモリーモード	22、50

ら

レピーター用トーン周波数	41
レピータ	17、18
ロックアウト機能	49

高品質がテーマです。

A-6539D-1J-①
Printed in Japan
© 2006 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32